

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	学校法人 龍谷大学	大学名	龍谷大学
研究プロジェクト名	日本仏教の通時的・共時的研究—多文化共生社会における課題と展望—		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトは、龍谷大学世界仏教文化研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが文部科学省の進める私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受けて推進するものであり、その究極的な目的はいうまでもなく、龍谷大学が「仏教の世界的研究拠点」の形成をめざして新たに設立した、龍谷大学世界仏教文化研究センターの基盤形成にある。

龍谷大学は寛永 16 年(1639)に浄土真宗本願寺派本山本願寺の境内地に創設された学寮を淵源としており、爾来、379 年にわたって仏教研究を蓄積してきた。その地道な研究成果を拠点形成という新たな視座のもとで進展させ、かつ日本仏教を従来の概念を超えた多角的視野より研究することによって、新たな知見を獲得していこうとするところに、本研究の今一つの目的がある。

21 世紀の仏教研究は、研究拠点と研究拠点との連携が促進され、拠点を基盤とした研究者間の連携研究・複合型研究がいちじるしく進展する時代に入ったといつてよい。すでに本学においても仏教写本のデジタルアーカイブ化が推進されており、異種分野との連携研究や複合型研究が進展しつつある。かかる観点より、本学は仏教の世界的研究拠点の形成をめざして世界仏教文化研究センターを設立したわけであるが、その実現のために実績あるアジア仏教文化研究センターを傘下におさめ、その研究成果(2011 年度～2014 年度「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究」)を前提とした「日本仏教の多角的研究(通時的共時的研究)」を推進することで新たな知見の獲得をめざすべく、本研究プロジェクトを遂行してきた。これをもって、アジアを中心とした世界的視野の中で日本仏教を包括的に解明するとともに、人文科学・社会科学・自然科学等の分野の異なる研究者をも加えた連携研究・複合型研究の展開を生み出す、仏教の世界的研究拠点(基盤)の形成を構想している。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本研究プロジェクトは、全体を大きく通時的研究グループと共時的研究グループに二分し、計4つのユニットを設置し、その中に9つのサブユニットを配し、研究を進めてきた。その結果、以下のような成果を得たので、サブユニットごとに示すことにする。

1) 教行信証班(G1UAS1)

龍谷大学図書館が所蔵する『教行信証』の文明 2 年本を中心に、各地に点在する古写本

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

を現地調査の上で複写収集し、もって『教行信証』の系統・流伝等を明らかにすると共に、『教行信証』の思想的意義の更なる解明に向けた総合的な視野からの研究を地道に進めてきた。その結果、2015年度から2017年度にかけての調査・研究によって、「高田本」が親鸞の自筆ではないものの「板東本」と極めて親密性の高いものであったこと、帰京後の親鸞の布教や執筆活動には関東の影響が大きかったこと、親鸞の布教・伝道が法然ゆかりの地域と重なっていたこと等々の新たな知見を得た。

また、2017年度にはG1UAS2の南都学北嶺学班との連携による国内シンポジウム「日本浄土教の特質と多様性」を実施し、『教行信証』に代表される親鸞浄土教のあり方をより広い日本浄土教の枠組みの中で再検証することによって、『教行信証』の総合的な研究の重要性を再認識した。地道な基礎研究を元としつつ、教行信証班では上記のシンポジウムを初めとして、3年間で研究会2回、学術講演会8回を実施するとともに、世界仏教文化研究センターの使命の1つである社会貢献に資する目的で文化講演会「なぜ親鸞思想は超国家主義へと接続したのか」をも開催している。

なお、教行信証班では、これらの諸研究を踏まえて、2019年度に『教行信証の総合的研究』(仮題)を公刊する予定である。

2) 南都学北嶺学班(G1UAS2)

龍谷大学の仏教学研究は、俱舎・唯識・華嚴・天台の四学と印度学・西域学の二学を中心になされてきた。このような伝統を受けてこの班では、特に唯識学・華嚴学・天台学に律学を加えた四学の教義・思想の研究に主眼を置きつつ、複合的な仏教研究を推進するために「南都学北嶺学」の名称を創始し、文献学・歴史学・図像学・法会学・植生学等の異分野との研究交流を念頭においた研究を推進することで、新たな知見の獲得をめざしてきた。その結果、南都北嶺の法会のすべてが仏道そのものであったこと、現代の南都北嶺の仏教者にも脈々として仏道実践のあり方が継承されていること、ならびに比叡山の植生護持の背景には「草木成仏」の教義のあったこと等々の新たな知見を得た。

また、2016年度に国内シンポジウム「南都学北嶺学の構築に向けてー論義と仏道ー」を実施して新視座を提示し、2017年度には落慶となったばかりの奈良薬師寺の食堂(じきどう)で国際シンポジウム「南都学北嶺学の世界ー法会と仏道ー」を開催し、論義法会・講式法会および戒律による仏道実践のあり方を明らかにしつつ(1部会～3部会)、第4部会においては「東日本大震災と仏教ー仏道の現代的意義ー」をテーマに法相宗・華嚴宗・天台宗・浄土真宗に属する計5名の僧侶によるパネルディスカッションも行ない、大きな成果を得た。なお、本サブユニットではその記録を編集し、2018年3月に『南都学北嶺学の世界ー法会と仏道ー』(法蔵館)と題して公刊した。なお、シンポジウム開催にあたっては、教行信証班と日本仏教の社会性公益性班の協力を得て、サブユニット間連携のもと、実施した。

また、社会還元の目的より2015年度に文化講演会「聖地に受け継がれし伝灯の行」を3回にわたって実施し、2016年10月にはこれを編集して『回峰行と修験道ー聖地に受け継がれし伝灯の行ー』(法蔵館)として公刊した。また、2017年度には文化講演会「聖地に受け継がれし伝灯の法会」を3回にわたって実施し、その成果を2018年度には『御水取と花会式ー聖地に受け継がれし伝灯の法会ー』(仮題)として公刊する予定である。

その他、本サブユニットでは3年間で研究会12回、セミナー5回、学術講演会9回を実施しており、その中に「比叡の森を守る」等のセミナーや「南都北嶺の仏教美術」に関する学術講演会等も複数回にわたってなされており、画期的な成果をあげている。いずれも2019年度に

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

は、『比叡山一仏教と植生一』(仮題)、『汎アジア的視点からの日本仏教図像研究』(仮題)として公刊される予定である。公刊される書籍としては他に、複数回にわたって地道な研究が進められてきた蔵俊撰『仏性論之事』についての研究書が 2018 年度に『蔵俊撰仏性論之事の研究』(仮題)として公刊される予定である。

また、本研究プロジェクトの究極的な目的である「基盤形成」を踏まえ、他の研究機関との連携を種々に模索しており、2019 年 1 月にはハーバード大学ライシャワー研究センターとの共催による国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」を開催する予定である。この企画は採択当初より計画していたものであるが、2016 年 1 月にライシャワー研究センター内での会議で正式に承認され、2019 年 1 月実施となったものである。本サブユニットでは、その成果を 2019 年度に『日本仏教の展開とその造形』(仮題)と題して公刊する予定である。今一つ、2017 年 5 月に開催する国際シンポジウム「日本仏教と論義」(於: 龍谷大学)は、名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターとの共催事業であり、この事業は2018年1月に龍谷大学世界仏教文化研究センターが名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターとの間で包括協定を締結したことを受けて実施するもので、その成果は『日本仏教と論義』(仮題)と題して2019年度に公刊する予定である。このように、この度の研究プロジェクトを有意義に活用して、仏教研究の拠点形成をはかる種々の取り組みを行なっていることを、ここに付言しておきたい。

3) 仏教系世界図班(G1UAS3)

龍谷大学図書館は、15 世紀に李氏朝鮮において制作された『混一疆理歴代国都之図』(以下『混一図』と略す)を収蔵しているが、この地図は現存する最古の世界地図の一つである。もちろん、『混一図』以前にも世界地図はあったと推定されており、そのような仏教系世界図が現実世界の地図に移行する頃に制作されたものが『混一図』であり、種々の問題を内在していたため、両者の比較検討を行う必要性があった。そこで、この班では龍谷大学のデジタルアーカイブとの連携のもと、『混一図』をはじめとする古地図の高解像度のデジタル画像を作成し、地図に表された仏教的世界観から現実の世界像認識への道程を検討しようと計画した。その結果、『混一図』を初めとする古地図の高解像度のデジタル画像を比較検証することによって新たな知見を得ると共に、台湾の研究機関(中央研究院・故宮博物館)での調査をもとにした報告論文の作成、さらには社会還元の意図のもと、大谷光瑞師班との連携による文化講演会を実施(タイトル『混一疆理歴代国都之図』から見た“世界”)すると共に、『「世界」へのまなざしー最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へー』(2017 年 12 月: 法蔵館)を公刊するに至った。また、2019 年度には、『仏教系世界図と前近代の世界認識』(仮題)を公刊する予定である。

なお、この班では他に学術講演会を 3 年間で3回行なっているが、特筆すべきはデジタルアーカイブとの連携研究にあり、また大谷光瑞師班との連携研究をも押し進めたという点で、他分野との連携研究・複合型研究を先駆けて推進している点に大きな成果がある。

4) 明治仏教班(G1UBS1)

明治期に入って日本仏教は国際的な展開をみせる。龍谷大学でも、その前身である普通教校(明治 18 年<1885>創立)の教職員が中心となって 1888 年に設立された海外宣教会において、英文仏教雑誌『垂細垂之宝珠(Bijou of Asia)』を年1回発行し、国外の 200 ヶ所以上の研究機関や図書館に無料で送付していた。その内容分析を手がかりとして、西洋諸国

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

の宗教思想や文化と接触した明治の仏教者が、他者であるキリスト教との相互交渉をとおり、いかなる自己認識の変化を被ったのかを、世界の諸宗教を包摂する「宗教 (religion)」概念の構築過程とも相関させながら検討すべく、研究を重ねてきた。基礎となる研究会を3年間で10回実施し、『亜細亜之宝珠』の分析研究を主として行なうと共に、『亜細亜之宝珠』以前に出された浄土真宗の英文伝道文書をも収集し、その読解分析を行なってきた。その結果、仏教の国際的ネットワークを築くための日本側のキーパーソンとなった赤松連城についての研究が深められ、3年間で国内外の研究者を多数招聘したワークショップを2回、学術講演会を2回実施し、アジア仏教文化研究センター(ひいては世界仏教文化研究センター)を拠点とする連携研究の具体的な推進という成果を着実に達成した。

なお、本サブユニットでは、戦時下日本仏教班(G1UBS2)ならびに多文化共生班((G2UB)との連携研究によって、2018年2月に『仏教英書伝道のあけぼの』(法蔵館)を公刊した上、2019年度には総括となる『明治仏教の国際化』(仮題)をも公刊する予定である。

5) 戦時下日本仏教班(G1UBS2)

日本が国際連盟を脱退(1933年2月)して国際的に孤立するなか、日本の仏教関係者たちは欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、またアジア諸国の仏教勢力との多面的な協力提携を目指し、非常に多様な事業を推進したが、残念ながらこれらの事業に関わる資料の多くは散逸し、残された資料も万全な保存状況とは言えない状況にある。かかる観点より、本サブユニットでは一連の事業に関係した資料の復刊をめざすと共に、戦時下日本の仏教者による国際交流活動の実態を解明すべく、研究を進めてきた。その結果、3年間で計画どおり、以下の復刊書籍の公刊(不二出版)を達成するに至った。

BARC 叢書1『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第1巻)第I期—汎太平洋仏教青年会大会関係資料—』

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第2巻)第I期—汎太平洋仏教青年会大会関係資料—』

BARC 叢書2『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第3巻)第II期—南方部仏教圏との交流—』

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第4巻)第II期—南方部仏教圏との交流—』

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第5巻)第II期—南方部仏教圏との交流—』

BARC 叢書4『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第6巻)第III期—中国と仏教との提携—』

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第7巻)第III期—中国と仏教との提携—』

BARC 叢書5『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第8巻)第IV期—全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』—』

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流(第9巻)第IV期—全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』—』

また、本サブユニットでは明治仏教班(G1UBS1)ならびに多文化共生班((G2UB)との連携研究の成果として、『仏教英書伝道のあけぼの』(2018年2月:法蔵館)をBARC叢書3として公刊しており、また2019年度には総括となる『戦時下日本仏教の国際交流』(仮題)を

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

も公刊する予定である。

その他、研究会2回、セミナー3回、ワークショップ2回を実施し、研究成果の蓄積と公開を続けており、赫々たる成果をあげている。

6)大谷光瑞師班(G1UBS3)

大谷光瑞(1876-1948)は、龍谷大学の創設団体である浄土真宗本願寺派の第22世宗主であり、かつ中央アジアの仏教調査を行なった「大谷探検隊」を派遣した人物としてもよく知られている。しかし、そのみならず収集した資料の研究調査を行う光寿会を主宰した「研究者」の一面も持ち、また武庫仏教中学等の創設を行なった「教育者」でもあり、さらにはジャワ・トルコ等で産業開発を行なった「実業家」でもあった。本サブユニットでは、このような多様な大谷光瑞像を再検証しつつ、光瑞自身の思想をもとに彼が国際規模で遂行した諸事業・諸活動の歴史的背景や意義を再考すべく、研究を進めてきた。その結果、農学部門との複合型研究によって光瑞の熱帯農法が具体的に検証されたことを初めとし、トルコ・台湾での殖産事業の確認、光瑞の命によってチベットに派遣された多田等観の招来した「釈尊絵図」の研究等々に、大きな成果が得られた。これらの成果を踏まえて本サブユニットでは、大谷光瑞師遷化 70 年にあたる 2018 年に国際シンポジウム「大谷光瑞の思想と事業の再検証」を実施する計画を立てており、かつまた、その内容を 2019 年度に『大谷光瑞の思想と事業の再検証』(仮題)として公刊する予定にある。

なお、本サブユニットは農学部門のみならず旅順博物館との提携研究をも推進し、2017 年 7 月には旅順博物館長を初めとする中国側の要人を招いて学術講演会を開催している。これは、世界仏教文化研究センターが 2017 年度に中国の旅順博物館と結んだ包括協定に基づく研究展開であり、世界仏教文化研究センターの拠点化推進に大きく寄与しているといつてよい。

ちなみに、本サブユニットは3年間にわたり、研究会1回・ワークショップ2回・学術講演会2回・シンポジウム1回を実施するとともに、社会還元のための文化講演会「世界認識とアジア」(計3回)を仏教系世界図班(G1UAS3)と連携して実施しており、その成果は『「世界」へのまなざしー最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へー』(2017 年 12 月:法蔵館)としてすでに公刊されている。

7)日本仏教の社会性公益性班

東日本大震災以降、海外の日本仏教研究者の間では「宗教の社会性・公益性」という観点から、あらためて現代日本仏教の公的な役割が再検討されつつある。本サブユニットでは、国外の研究者の日本仏教に対する評価にも耳を傾けながら、「日本仏教の社会性・公益性」について考察すべく、研究を推進してきた。具体的には、日本における仏教者・仏教教団による社会貢献活動の実態や意義、あるいは各宗派による現代的な諸問題への取り組み、地域社会における寺院の役割、国内外の宗教者による自死対策団体の活動実態、および国内外の仏教系 NGO・NPO の活動実態調査などである。その結果、JIPPO を初めとする仏教系 NGO・NPO の活動実態、ならびにキリスト教をも加えた浄土真宗本願寺派・臨済宗・曹洞宗・日蓮宗・浄土宗等の宗教者による自死対策団体の活動実態等も明らかとなった。これらを受けて 2017 年 11 月、国内外の宗教者兼研究者を招聘して国際シンポジウム「仏教と自死に関する国際シンポジウム」を実施した。その成果を 2019 年度には『仏教者による自死対策の現状と課題』(仮題)として公刊する予定である。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

なお、本サブユニットでは各種の国内外調査に加えて、3年間で研究会4回・ワークショップ6回・学術講演会1回・シンポジウム2回を実施し、公開型のものにおいては現代社会の諸問題を社会に問う役割をはたし、本研究プロジェクトの持つ社会貢献の一翼を担った。

8) 現代アジア仏教班(G2UAS2)

現代のアジア諸地域における仏教者のさまざまな活動や社会的役割について調査・研究し、それらとの比較考証によって現代日本仏教の社会性・公益性の特質を浮き彫りにすべく、現地調査を中心とする研究を進めてきた。その結果、タイの仏教界が青少年の道德改善のためにさまざまな対策を講じていること、現代インドにおける改宗仏教徒の実態、台湾仏教による社会事業の現状、韓国比丘教団(普門宗)の社会活動の実態等についての知見を得ることができ、講演会等を通して公開した。また、エンゲージド・ブディズムに関する研究を深め、アメリカのバークレーにあるIBSにおいて、エンゲージド・ブディズムをテーマとした国際ワークショップを開催した。また、南都学北嶺学班(G1UAS2)に協力して、国際シンポジウム「南都学北嶺学の世界一法会と仏道一」の第4部「東日本大震災と仏教一仏道の現代的意義一」においてコーディネーターを出し、連携の成果を示した。

なお、このサブユニットでは3年間に研究会6回・セミナー1回・ワークショップ1回を開催しているが、その研究方針は国際的視野の中で社会性・公益性を問う点に特色があり、G2UAS1の現代日本仏教の社会性・公益性班の内容をより俯瞰的に補足するものである。また、国内外の研究機関(拠点)や研究者との連携研究を進めている点でも、本研究プロジェクトの目的遂行に大きく寄与しているといつてよい。2019年度には、これらをまとめた書籍(タイトル未定)を刊行する予定である。

9) 多文化共生班(G2UB)

「多文化共生」が求められる現代社会において日本仏教の直面する課題を明らかにするために、宗教間対話・宗教間教育・現代日本仏教とジェンダーに関する研究を推進してきた。その結果、国際シンポジウム「多文化共生社会における宗教間対話」、国際シンポジウム「悪と自己意識」、国際ワークショップ「宗教多元論の理論の再検討」、国際ワークショップ「越境する日本の女性仏教徒」、ワークショップ「仏教の女性観を考えるージェンダーの視点からー」等を初めとして、この3年間で研究会1回・セミナー1回・ワークショップ5回・学術講演会3回・シンポジウム3回を開催し、研究の進展をはかると共に、広く社会に公開した。

なお、ミュンスター大学を会場に実施された国際シンポジウム「悪と自己意識(Evil and Self-Awareness)」(2017年7月)は、ミュンスター大学・ジョージタウン大学との共催事業であり、拠点と拠点との連携研究を推進するものである点、本研究プロジェクトの目的をよく遂行するものであつといつてよい。また、本サブユニットにおいては、2018年度に研究成果をひとまずまとめた『多文化共生社会における課題と展望』(仮題)を刊行する予定である。

以上のように、サブユニットごとの研究テーマを中心に本研究プロジェクト「日本仏教の通時的共時的研究ー多文化共生社会における課題と展望一」についての研究は連携研究・複合型研究をも含めて着実に推進されており、研究拠点(基盤)の形成という最終目的の完遂が見えてきている。その過程で公刊する書籍の数も、BARC叢書で19部、文化講演会シリーズで5部の計24部(既刊8部)を計画している。その中の1部は、本研究プロジェクトのまとめとなる書籍(BARC叢書19)であり、全9サブユニットの研究成果を集成し、研究者のみならず一般読者をも対象としたレベルで執筆・公刊する予定にある。また、構想調書に記される

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

年度ごとの研究計画はすべてクリアーしており、研究の進展にしたがって『南都学北嶺学の世界—法会と仏道—』『仏教英書伝道のあけぼの』や文化講演会シリーズの公刊など、構想調書にはない新たな研究展開も多々見られる。

なお、途中成果の一部を研究報告書(論稿)であるワーキングペーパーにして、すでに以下のとおり報告しているので、あわせて付記しておく。

- ① 杉岡孝紀「親鸞思想の哲学的研究—西田幾多郎の純粹経験と親鸞の他力念仏—」
- ② 玉木興慈「釈尊と親鸞の伝道」
- ③ 楠淳證「法相論義「一仏繫属」展開の意義—貞慶による法然浄土教批判の論理構築—」
- ④ 道元徹心「近世比叡山における山修山学の理念継承の一面—『比叡山再興縁起』等の資料より—」
- ⑤ 武覚超「慈恵大師良源から恵心僧都源信への影響—『往生要集』を中心に—」
- ⑥ 小南妙覚「慈覚大師円仁将来目録の研究—『入唐求法巡礼行記』との関連を中心に—」
- ⑦ 渡邊久「龍谷大学蔵「混一疆理歴代国都之図」の跋文について」
- ⑧ 嵩満也「The Bijou of Asia—『亜細亜之寶珠』創刊号の巻頭記事」
- ⑨ 中西直樹「戦前期日本仏教のマライ半島布教」
- ⑩ 大澤広嗣「雑誌『海外仏教事情』総目次」
- ⑪ 釋氏真澄「戦時下における日本仏教のアメリカ化の諸相—強制収容所での真宗伝道—」
- ⑫ 三谷真澄「大谷光瑞師の思想と事業～その歴史的意義の再検証に向けて～」
- ⑬ 市川良文「龍谷大学図書館蔵【寄託本】大谷光瑞師書簡」について」
- ⑭ 竹本了悟・野呂靖「仏教者による自死対策—国際的な課題の共有に向けて—」
- ⑮ 南條了瑛「宗教施設の訪問者に関する一考察」
- ⑯ 藤能成「韓国・比丘尼の社会活動・比丘尼組織の活動に関する調査報告」
- ⑰ 藤能成「仏教国家・ブータン—ブータン仏教国際会議参加報告—」
- ⑱ Thisar Nandi「Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar」
- ⑲ 那須英勝「初期仏教英書伝道資料の解題:『A SHORT HISTORY OF THE TWELVE JAPANESE BUDDHIST SECTS』南條文雄著訳(英文)『TRUE SECT OF BUDDHISTS (英文真宗教旨 和文付)』(英文・和文)」
- ⑳ 本多彩「シアトルの日本人移民仏教徒—1913年から1924年の『佛之教』から—」
- ㉑ 本多彩「日米の女性僧侶の声—国際ワークショップ「越境する日本の女性仏教徒」—」

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

**平成27年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 龍谷大学 2 大学名 龍谷大学

3 研究組織名 アジア仏教文化研究センター

4 プロジェクト所在地 京都市下京区七条大宮東入大工町 125-1

5 研究プロジェクト名 日本仏教の通時的・共時的研究—多文化共生社会における課題と展望—

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
楠 淳證	文学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 46 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
楠 淳證	文学部・教授	東アジアの中の南都仏教(法相唯識)	<研究代表者> 日本仏教の形成と展開(ユニットA)
入澤 崇	文学部・教授	汎アジア的視点からの日本仏教 図像研究	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
中川 修	文学部・教授	東アジアの中の南都仏教(浄土教)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
道元 徹心	理工学部・教授	東アジアの中の北嶺仏教(天台)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
土屋 和三	仏教文化研究所・客員研究員	比叡山の植物生態系と北嶺仏教	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
藤丸 要	文学部・教授	東アジアの中の南都仏教(華嚴)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
長谷川 岳史	経営学部・教授	東アジアの中の南都仏教(法相唯識・密教)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
川添 泰信	文学部・教授	東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
杉岡 孝紀	農学部・教授	東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
玉木 興慈	文学部・教授	東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

高田 文英	文学部・准教授	東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
村岡 倫	文学部・教授	前近代日本における仏教的世界観(『混一疆理歴代国都之図』と仏教系世界図)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
渡邊 久	文学部・教授	前近代日本における仏教的世界観(『混一疆理歴代国都之図』と仏教系世界図)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
蓑輪 顕量	東京大学大学院人文社会系研究科・教授	東アジアの中の南都仏教(戒律)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
西谷 功	泉涌寺宝物館・学芸員	汎アジア的視点からの日本仏教図像研究	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
大谷 由香	文学部・講師	東アジアの中の南都仏教(戒律)	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
赤松 徹眞	龍谷大学・名誉教授	近代日本における仏教と国家	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
龍溪 章雄	文学部・教授	近代日本における仏教者の思想形成	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
中西 直樹	文学部・教授	近代日本における仏教系雑誌の研究	<グループ1統括リーダー> 近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
岩田 真美	文学部・准教授	近代日本における仏教と他宗教の対話	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
能仁 正顕	文学部・教授	大谷光瑞の思想と事業の再検証(チベット)	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
三谷 真澄	国際学部・教授	大谷光瑞の思想と事業の再検証(総合)	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
市川 良文	文学部・准教授	大谷光瑞の思想と事業の再検証(西域)	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
松居 竜五	国際学部・教授	大谷光瑞の思想と事業の再検証(周辺)	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
林 行夫	文学部・教授	東南アジア上座部仏教と日本仏教	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
吉永 進一	舞鶴工業高等専門学校・教授	近代日本における仏教系雑誌の研究	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
大澤 広嗣	文化庁文化部宗務課専門職	近代日本における仏教系雑誌の研究	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
リチャード・ジャフィ	デューク大学・准教授	近代日本における仏教系雑誌の研究	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
浅田 正博	龍谷大学・名誉教授	日本仏教の形成と展開	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)
宮治 昭	龍谷大学・名誉教授	汎アジア的視点からの日本仏教図像研究	日本仏教の形成と展開(ユニットA)
嵩 満也	国際学部・教授	仏教者の社会活動の理論的研究・宗教間対話の研究(イスラム世界)	<グループ2統括リーダー> 現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
藤 能成	文学部・教授	アジア諸地域における仏教者の社会活動(韓国)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

若原 雄昭	文学部・教授	アジア諸地域における仏教者の社会活動(南アジア)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
岡本 健資	政策学部・准教授	アジア諸地域における仏教者の社会活動(南アジア)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
長上 深雪	社会学部・教授	日本における仏教者の社会活動(社会福祉)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
野呂 靖	文学部・准教授	日本における仏教者の社会活動(ボランティア・NPO)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
竹本 了悟	浄土真宗本願寺派総合研究所・研究員	日本における仏教者の社会活動(ボランティア・NPO)	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
マーク・ロウ	マクマスター大学・准教授	地域社会における寺院の役割	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)
高田 信良	龍谷大学・名誉教授	宗教間対話と宗教間教育	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
那須 英勝	文学部・教授	宗教間対話と宗教間教育	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
小原 克博	同志社大学・神学部・教授、良心学研究センター・センター長	宗教間対話と宗教間教育	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
ダンカン・ウィリアムズ	南カリフォルニア大学・教授	宗教間対話と宗教間教育	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
本多 彩	兵庫大学共通教育機構・准教授	宗教と女性	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
桂 紹隆	広島大学・名誉教授	現代日本仏教の社会性・公益性 / 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
佐藤 智水	龍谷大学・名誉教授	現代日本仏教の社会性・公益性 / 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
廣田 デニス	龍谷大学・名誉教授	現代日本仏教の社会性・公益性 / 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)
(共同研究機関等)			

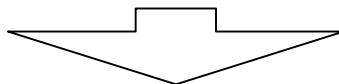
法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日本仏教における仏教系雑誌の研究	舞鶴工業高等専門学校・准教授	吉永 進一	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



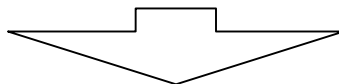
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
舞鶴工業高等専門学校・准教授	舞鶴工業高等専門学校・教授	吉永 進一	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



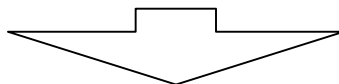
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	広島大学・名誉教授	桂 紹隆	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)、多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	龍谷大学・名誉教授	佐藤 智水	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)、多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

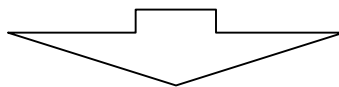
旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

--	--	--	--

(変更の時期:平成 27 年 9 月 10 日)



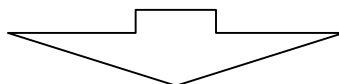
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文化庁文化庁宗務課・専門職 文部科学省事務官	大澤 広嗣	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 9 月 17 日)



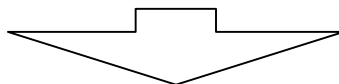
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	浄土真宗本願寺派総合研究所・研究員	竹本 了悟	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 9 月 17 日)



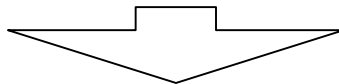
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	龍谷大学・国際学部・教授	松居 竜五	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 10 月 6 日)



新

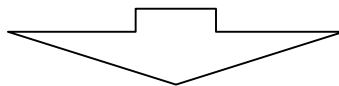
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	泉涌寺・宝物館・学芸員、龍谷大学・非常勤講師	西谷 功	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	龍谷大学・文学部・教授	杉岡 孝紀	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

(変更の時期:平成27年4月1日)



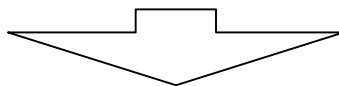
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・教授	龍谷大学・農学部・教授	杉岡 孝紀	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大谷光瑞の思想と事業の再検証(総合)	龍谷大学・国際文化学部・教授	三谷 真澄	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

(変更の時期:平成27年4月1日)



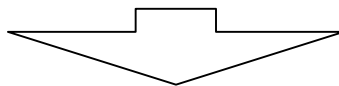
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・国際文化学部・教授	龍谷大学・国際学部・教授	三谷 真澄	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
仏教者の社会活動の理論的研究・宗教間対話の研究(イスラム世界)	龍谷大学・国際文化学部・教授	嵩 満也	<グループ2総括リーダー> 現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

(変更の時期:平成27年4月1日)



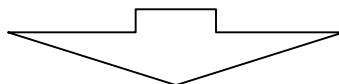
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・国際文化学部・教授	龍谷大学・国際学部・教授	嵩 満也	<グループ2総括リーダー> 現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
宗教間対話と宗教間教育	龍谷大学・文学部・教授	高田 信良	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

(変更の時期:平成28年4月1日)



法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

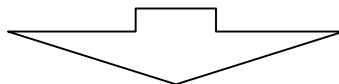
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・教授	龍谷大学・名誉教授	高田 信良	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
宗教間対話と宗教間教育	同志社大学・教授、一神教学際研究センター・所長	小原 克博	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



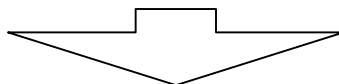
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
同志社大学・教授、一神教学際研究センター・所長	同志社大学・教授、良心学研究センター・センター長	小原 克博	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
宗教と女性	兵庫大学・生涯福祉学部・講師	本多 彩	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



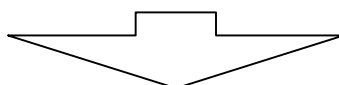
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
兵庫大学生涯福祉学部・講師	兵庫大学・生涯福祉学部・准教授	本多 彩	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

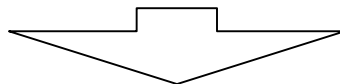
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	龍谷大学・非常勤講師	大谷 由香	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



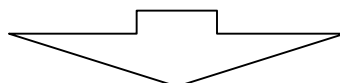
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	龍谷大学・名誉教授	廣田 デニス	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望(ユニットB)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
汎アジア的視点からの日本仏教図像研究	龍谷大学・文学部・教授	宮治 昭	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



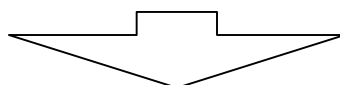
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・教授	龍谷大学・名誉教授	宮治 昭	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
比叡山の植物生態系と北嶺仏教	龍谷大学・文学部・教授	土屋 和三	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



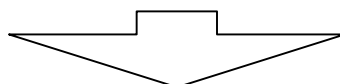
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・教授	仏教文化研究所・客員研究員	土屋 和三	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東アジアの中の親鸞浄土教(『教行信証』の総合的研究)	龍谷大学・短期大学部・教授	玉木 興慈	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

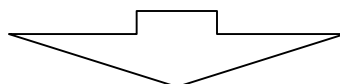
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・短期大学部・教授	龍谷大学・文学部・教授	玉木 興慈	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日本における仏教と国家	龍谷大学・文学部・教授	赤松 徹眞	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



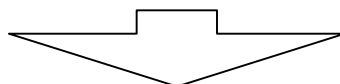
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・教授	龍谷大学・名誉教授	赤松 徹眞	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日本における仏教と他宗教の対話	龍谷大学・文学部・講師	岩田 真美	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



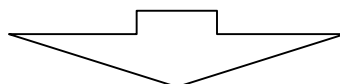
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・講師	龍谷大学・文学部・准教授	岩田 真美	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東南アジア上座部仏教と日本仏教	京都大学地域研究統合情報センター・教授	林 行夫	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

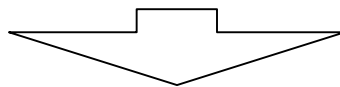
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
京都大学地域研究統合情報センター・教授	龍谷大学・文学部・教授	林 行夫	近代日本仏教と国際社会(ユニットB)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東アジアの中の南都仏教(戒律)	龍谷大学・非常勤講師	大谷 由香	日本仏教の形成と展開(ユニットA)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



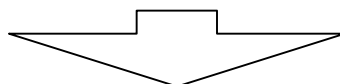
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学非常勤講師	文学部・講師	大谷 由香	日本仏教の形成と展開 (ユニットA)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本における仏教者の社会活動(ボランティア・NPO)	龍谷大学・文学部・講師	野呂 靖	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



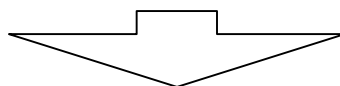
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
龍谷大学・文学部・講師	龍谷大学・文学部・准教授	野呂 靖	現代日本仏教の社会性・公益性(ユニットA)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
宗教と女性	兵庫大学・生涯福祉学部・准教授	本多 彩	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望 (ユニットB)

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
兵庫大学生涯福祉学部・准教授	兵庫大学・共通教育機構・准教授	本多 彩	多文化共生社会における日本仏教の課題と展望 (ユニットB)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトは、龍谷大学世界仏教文化研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが文部科学省の進める私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受けて推進するものであり、龍谷大学が「仏教の世界的研究拠点」の形成をめざして新たに設立した、龍谷大学世界仏教文化研究センターの基盤形成にある。

龍谷大学は寛永 16 年(1639)に浄土真宗本願寺派本山本願寺の境内地に創設された学寮を淵源としており、379 年にわたる地道な研究成果を拠点形成という新たな視座のもとで進展させ、かつ日本仏教を従来の概念を超えた多角的視野より研究することによって、新たな知見の獲得をめざしている。かかる観点より世界仏教文化研究センターの設立ならびに本研究プロジェクトをスタートさせたのであるが、21 世紀の仏教研究を俯瞰すると、研究拠点同士の連携が促進され、拠点を基盤とした研究者間の連携研究・複合型研究が著しく進展する時代に入ったといつてよい。その将来図を視野に入れ、本研究プロジェクトは「日本仏教の多角的研究(通時的共時的研究)」を推進することで新たな知見の獲得を推進してきた。これをもって龍谷大学は、アジアを中心とした世界的視野の中で日本仏教を包括的に解明するとともに、人文科学・社会科学・自然科学等の分野の異なる研究者をも加えた連携研究・複合型研究の展開を生み出す、仏教の世界的研究拠点(基盤)の形成を構想している。

(2) 研究組織

2015 年度に発足した龍谷大学の新たな全学的仏教研究の拠点である「龍谷大学世界仏教文化研究センター」の傘下に、本研究プロジェクトの主体となる研究組織「アジア仏教文化研究センター」(BARC)が設置され、研究代表者の楠淳證がセンター長として研究を統括し、総合的な調整の任に当たることとなった。

本研究プロジェクトは、通時的面より研究する第1グループ(G1)と共時的面より研究する第2グループ(G2)とに分かれ、さらに第1グループにはユニットA(G1UA)「日本仏教の形成と展開」およびユニットB(G1UB)「近代日本仏教と国際社会」を、第2グループにはユニットA(G2UA)「現代日本仏教の社会性・公益性」およびユニットB(G2UB)「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」の計4ユニットが置かれ、さらにその傘下にサブユニット(SB)が設置され、SB1「教行信証班」、2「南都学北嶺班」、3「仏教系世界図班」(以上G1UA)、SB1「明治仏教班」、2「戦時下日本仏教班」、3「大谷光瑞師班」(以上G1UB)、SB1「日本仏教の社会性公益性班」、2「現代アジア仏教班」(以上G2UA)、「多文化共生班」(以上G2UB)がある。総研究員数は46名であり、これに学内外の研究協力者6名、博士研究員2名とリサーチ・アシスタント2名が加わり、研究を推進している。

本研究プロジェクトを全体として統括・推進するために運営要項を策定し、センター長、副センター長、グループ長、ユニット長ならびにセンター長が指名するサブユニット長、さらには世界仏教文化研究センター長、研究部事務部長、事務局、博士研究員を加えた運営会議を設置し、進捗状況を確認、共有、調整しながら毎年度の研究計画を策定し、予算管理を適切に行っている。

また、年2回研究総会を開催し、全研究員を対象とする研究進捗状況の共有、ならびにサブユニット間の連携研究の発表を行っており、多岐にわたる本研究プロジェクトの方向性を全研究員で確認しながら、研究拠点形成を目的とする本研究プロジェクトを推進している。

(3) 研究施設・設備等

第1期のアジア仏教文化研究センター(BARC)開設時に、龍谷大学大宮学舎隣接敷地に「白亜館」(2011年竣工)を建設し、研究機関「アジア仏教文化研究センター」を設置した。第2

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

期 BARC においては、2015 年度発足の新たな全学的仏教研究拠点である「龍谷大学世界仏教文化研究センター」の傘下に置かれる事に伴い、研究室等の再整備(198 m²)を行った。

白亜館には資料室が1部屋、各グループ・ユニット・サブユニットが使用する研究室が6部屋、PD・RA(4名)が常駐する研究室が1部屋、事務室が1部屋設置されている。4階建ての総部屋数は9部屋(面積 491.00 m²、使用人数約 34 人程度、月 140 時間程度利用)である。

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

1) 教行信証班(G1UAS1)

・『教行信証』諸写本(真宗寺本、中山寺本、寿福院本等)の収集を行った。新潟県浄興寺蔵室町初期書写本、大谷大学蔵室町中期本、延文五年本、文安六年本、中山寺蔵本(性海の奥書あり)、(性海の奥書なし)の二本、岸部氏所蔵本をそれぞれ現地調査し、資料収集した。
・収集した『教行信証』諸本の比較と校異を行い、文明二年本系統の特色を明らかにするため、真宗高田派所蔵の『教行信証』の書誌に精通した研究者を招聘し、研究会*1を開催した。

2) 南都学北嶺学班(G1UAS2)

・「法相」「華嚴」「天台」「律」の各宗教義に関する論義資料、特に本学所蔵文献の調査・翻刻読解研究について、資料の調査・収集を行った。また、本学所蔵の『阿弥陀経略記』、立命館大学所蔵の『仏性論之事』(蔵俊撰)の研究書刊行に向けた研究会を開催した。

・国内シンポジウム「南都学北嶺学の構築に向けてー論義と仏道ー」*2ならびに国際シンポジウム「南都学北嶺学の世界ー法会と仏道ー」*3を開催した。

・比叡山の横川から東塔にかけて比叡山の植生に関する生態学的な調査*4を行った。

・叡山文庫所蔵の植栽関連文書の調査・翻刻・読解の研究*5を行った。これにより、天台大師智顛の思想に基づいた山修山学の理念を最澄が形成し、近世において継承されてきたかが明らかとなった。

3) 仏教系世界図班(G1UAS3)

・本学古典籍デジタルアーカイブ研究センターの協力のもと、『混一図』や仏教系世界図のさらなる鮮明化を行い、高解度のデジタル画像の作成・研究・公開に向けた作業*6を進めた。

・『混一図』上の地域に見られる仏教系世界図との関連を解析し、歴史事象としての分析を加える目的で、宗教文化史・政治史・経済史の各専門家を複数招聘し、研究会*7を開催した。

4) 明治仏教班(G1UBS1)

・『亜細亜之宝珠(Bijou of Asia)』およびその関連資料を網羅的に収集し、検討を行なった。これにより、日本国内だけではなく国際的な脈絡の中で、明治初期の日本の仏教者の活動を理解するための、基礎資料の蓄積と整備が進められた。

・『亜細亜之宝珠』の原文翻訳と、記事に現れる海外の通信者の特定作業を行った。また、仏教の国際的ネットワークの日本側のキーパーソンとなる、赤松連城について研究を深めた。

・『亜細亜之宝珠』の読解を主とする研究会*8を大学院生も加えて継続的に開催した。

5) 戦時下日本仏教班(G1UBS2)

・汎太平洋仏教青年大会およびその関係資料を復刊*9し、戦前の民間レベルの国際交流のあり方を検証した。

・大日本仏教青年会連盟内に組織された国際仏教通報局にかかわる研究を行うとともに、同局が刊行した雑誌『国際仏教通報』の蒐集・総目次の作成を行い、同誌を復刊*9した。

・戦時下の日中仏教の交流を記録した『支那宗教事情』と『東亞宗教事情』の蒐集・総目次の作成もを行い、これも資料集として復刊*9した。

6) 大谷光瑞師班(G1UBS3)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

- ・『大谷光瑞全集』や雑誌『大乘』などの記述を中心に、大谷光瑞の思想と具体的事業の検証を行った。具体的には、農業に関する初出の『大乘』巻号などのリストを作成した。
- ・『大谷光瑞興亜計画』などに基づき、アジア全域を視野に入れた大谷光瑞の活動と意義の再検討を行った。特に光瑞の『熱帯農業』に記される熱帯農法が現代においても意義を有するのか否かについて、農学研究者との連携研究による実地検証 * 10を行なった。
- ・大谷光瑞とチベットとの関わりを明らかにするために、青木文教や多田等観をチベットに派遣した意図や意義についての検証 * 11、および大谷探検隊に関わる新資料の検討 * 12を行なった。

7) 日本仏教の社会性公益性班(G2UAS1)

- ・各宗派の研究機関の研究者が現代的諸問題にどのように対応しているかについて、実態を調査した。また、自死遺族の支援活動を行っている僧侶や研究者を、浄土宗、曹洞宗、浄土真宗、高野山真言宗、真宗興正派からそれぞれ招き、意見交換と討論のためのワークショップや研究会 * 13を開催した。
- ・各仏教系 NGO・NPO の代表と研究者が情報共有を行うためのセミナー * 14を開催した。
- ・過疎地域における寺院の社会性に関して、浄土真宗本願寺派第10回宗勢基本調査に携わった研究者を講師として招き * 15、地域に求められる寺院・住職の役割と社会活動のあり方について検証し、新たな知見を得た。
- ・保護司活動を行っている仏教者や、仏教社会福祉研究者を招き、国内シンポジウム * 16を開催した。仏教者による対人支援の実態や、仏教ボランティアとソーシャルワークの関係をめぐり理論などについて、多様な知見が得られた。

8) 現代アジア仏教班(G2UAS2)

- ・タイにおける仏教の社会的機能を明らかにするために、現地調査 * 17を行い、調査報告書をまとめた。これにより、タイの仏教界が青少年の道德改善のために様々な対策を講じている現状が明らかになった。
- ・韓国仏教の比丘尼の組織、活動状況を明らかにするために、ソウルでの2度にわたる現地調査を行い、研究会 * 18を開催した。
- ・インドの仏教改宗運動を先導している、The Venerable Ananda 師に、活動の報告 * 19がなされた。インド社会で改宗仏教徒のおかれている現状について、知見を広めることができた。
- ・バングラデシュの仏教徒マイノリティの現状を把握する基礎資料として、同国内上座部仏教寺院の網羅的調査を行い、寺院総覧作成の準備が完了した。
- ・欧米におけるエンゲイジド・ブディズム論に関する先行研究を整理し、これを批判的に検討しつつ、アジア・日本仏教研究への応用の可能性を検討した。

9) 多文化共生班(G2UB)

- ・「多文化共生社会における宗教間対話(Inter-faith Dialogue)」をテーマにした国際シンポジウム * 20を開催した。本シンポジウムを通して、仏教、キリスト教、新宗教それぞれの特徴を踏まえながら宗教多元論の理論や歴史的背景が再考され、その現代的な可能性が示された。
 - ・宗教多元論(religious pluralism)の理論の再検討を目的として、デンマーク国立オーフス大学から3名のアジア宗教研究者を迎え、国際ワークショップ * 21を開催し、新たな知見を得た。
 - ・イラン・コム宗教大学のジャーファーリー氏を招聘して「宗教間教育(Inter-faith Education)」をテーマにした国際ワークショップ * 22を開催した。
 - ・国際ワークショップ「越境する日本の女性仏教徒」 * 23を開催し、現代の女性仏教徒が経験している越境的な状況や、それによって生じている諸問題等について、新たな知見を得た。
- <特に優れた研究成果>

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

企画された9つのサブユニットのシンポジウム・講演会等はいずれも意義深いものであるが、この度の研究プロジェクトは「仏教の世界的研究拠点(基盤)の形成」をめざしており、それに関するシンポジウム等の開催や書籍公刊に、ことに優れた成果があると理解している。そこで、あらためて一覧にして示すと次のようになる。

- ① 国内シンポジウム「日本浄土教の特質と多様性」* 24 の開催。
- ② 国際シンポジウム「南都学北嶺学の世界－法会と仏道－」* 3 の開催と、そのあり方を文章化した『南都学北嶺学の世界－法会と仏道－』(2018年3月:法蔵館)* 25 の公刊。
- ③ 文化講演「聖地に受け継がれし伝灯の行」* 26 の開催と、そのあり方を文章化した『回峰行と修験道－聖地に受け継がれし伝灯の行－』(2016年10月:法蔵館)* 27 の公刊。
- ④ 明治仏教班(G1UBS1)・戦時下日本仏教班(G1UBS2)・多文化共生班(G2UB)の3サブユニットによる連携研究の成果である『仏教英書伝道のあけぼの』(2018年2月:法蔵館)* 28 の公刊。
- ⑤ 『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』全4期9巻* 9 の復刊(2015-2017年:不二出版)。
- ⑥ 仏教系世界図班(G1UAS3)・大谷光瑞師班(G1UBS3)の2サブユニットによる連携研究の成果である『「世界」へのまなざし－最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へ－』(2017年12月:法蔵館)* 29 の公刊。
- ⑦ 国内外の宗教者兼研究者を招聘して開催した国際シンポジウム「仏教と自死に関する国際シンポジウム」(2017年12月)* 30。
- ⑧ Jodo Shinshu Center, Conference Room (2nd floor), Berkeley, California を会場に開催された国際ワークショップ「Engaged Buddhism, The US and Japan: Past, Present and Future」(2016年3月)* 31。
- ⑨ ミュンスター大学・ジョージタウン大学との共催でミュンスター大学を会場に実施した国際シンポジウム「悪と自己意識(Evil and Self-Awareness)」(2017年7月)* 32。

<問題点とその克服方法>

本研究プロジェクトは、9サブユニットによって推進されており、サブユニットごとにそれぞれの研究テーマがある。これは、形成された研究拠点(基盤)である龍谷大学世界仏教文化センターの今後の展開を鑑みると、多種多様な研究の展開は絶対不可欠であると考えられるので、その点では究極的目的に適った研究プログラムを現在、推進しているといつてよい。

しかし、その一方で困難さが伴うのは、今回の研究プロジェクトのテーマである「日本仏教の通時的共時的研究－多文化共生社会における課題と展望－」を完遂するため、いかにしてサブユニット間の連携を図るかであった。換言すると、寛永16年(1639)より連綿として続いてきた仏教研究(通時的研究)を元に現代日本社会の課題と展望を考究する(共時的研究)にあたって、各サブユニットの研究成果を相互にいかんにか活用していくかが一つの課題であった。

ところが、この課題を根底に据えながら3年間にわたって研究を進めたところ、本来的に「人間の苦悩の解決を説くのが仏教である」からこそ、通時的諸研究が共時的諸研究に大きくコミットすることがあらためて確認された。その成果の1つが南都学北嶺学班による国際シンポジウム「南都学北嶺学の世界－法会と仏道－」と同名書の刊行である。また、『仏教英書あけぼの』の公刊は明治仏教班・戦時下日本仏教班・多文化共生班による連携研究による成果であり、また大谷光瑞師班による熱帯農法の実証は、異種分野である農学系との複合型研究の成果であるといつてよい。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

以上のように、当初より検討されていた「人間の苦悩の解決を説くのが仏教である」という点こそが本研究プロジェクトのキーポイントとなることが3年間の研究によって再確認されたことで、課題の克服方法があらためて明確になったものと考えている。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

研究成果は一過性のもので終わるのではなく、研究書(BARC 叢書)や一般書(文化講演会シリーズ)として公刊することによって、社会に還元していくのが本研究プロジェクトの方針の一つである。このことによって、多文化共生社会に移行してきた現代日本社会の切実な諸課題を解決するための有効な示唆を提示できればと考えている。

<今後の研究方針>

21世紀は、国内外に設置された各種の研究拠点が連携しあって研究を推進していく時代である。一人の研究者の基礎研究が小さく完結して終わるのではなく、各研究者の基礎研究を基底に据えながら、世界規模で連携研究を推進していくところに、新たな知見の獲得が展望される時代に入っている。

この認識のもと、龍谷大学は仏教の世界的な研究拠点の形成をめざして世界仏教文化研究センターを設立し、その拠点形成に向けてアジア仏教文化研究センターの研究プログラムを推進してきた。このあり方を実現するため、2018年5月には龍谷大学世界仏教文化研究センターが名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターとの間で締結した包括協定に基づき、国際シンポジウム「日本仏教と論義」(於:龍谷大学)を開催する。また、2018年10月には旅順博物館との包括協定に基づく国際シンポジウム「大谷光瑞の思想と事業の再検証」(於:龍谷大学)を開催し、2019年1月にはハーバード大学ライシャワー研究センターとの共催による国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」(於:ハーバート大学)を開催する予定にあり、いずれも、その成果を書籍化して広く社会に還元する計画にある。また、研究成果の社会的還元という点では、サブユニットごとの研究叢書と研究プロジェクト全体に関する研究叢書、ならびに文化講演会シリーズの公刊を計画している。

<今後期待される研究成果>

上記研究方針に基づいてなされるシンポジウムやセミナー・ワークショップ・学術講演会・文化講演会、ならびに複数の研究叢書・文化講演会シリーズの公刊による社会還元。さらには複数の連携研究による新たな知見の獲得。

<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

自己評価においては、年2回(前期・後期)、構想調書に即した研究を進められているかを確認するため、各サブユニット長が研究進捗状況のチェックリストを作成し、運営会議にて確認・共有・評価を行なうとともに、研究内容の進展に即して予算調整も行っている。

また、外部評価を2年目・4年目に実施する計画にあり、2年目の2016年度に外部評価を実施した。学外者2名・学内者1名の審査委員より、センター長・グループ長がヒアリングを受けた。①研究計画の妥当性、②研究進捗状況、③研究体制、④研究業績の4つの評価項目に対して5点評価がなされ、3名の審査委員の平均が4.49と高評価となり、研究に関しては全般的に成果が得られているとの評価を受けた。改善点等の指摘としては、学際・国際的協働の輪を広げる一方で市民的感心を高めるため公開事業や発信機能の高いプロジェクト運営を進めて欲しい旨の指摘がなされた。そこで、すでに開催している一般向けの文化講演会の充実と共に新たな講演会等の開催も行ない、チラシ・ポスターだけでなく、ホームページやFacebook等でも広く広報し、最終年度にはBARC全体を集約した書籍をも出版することとなった。それらの予算については当該研究費の範囲内で実施可能である。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 『教行信証』 (2) 南都学北嶺学 (3) 仏教系世界地図
 (4) 明治仏教 (5) 戦時下仏教 (6) 大谷光瑞
 (7) 社会性公益性 (8) 多文化共生

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

グループ1(通時的研究班)・ユニットA:日本仏教の形成と展開

楠 淳證(センター長)

- ①「貞慶の遁世について—新資料「故解脱房遺坂僧正之許消息之状」翻刻紹介—」楠淳證著、龍谷大学『佛教學研究』浅田正博教授定年記念号、第71号、19-28頁、2015年3月。
 ②「法相論義「一仏繫属」展開の意義—貞慶による法然浄土教批判の論理構築—」楠淳證著、『龍谷大学論集』第490号、24-51頁、2017年11月。

中川 修

- ①「行基再考—最初の一步—」中川修著、『仏教史研究』第56号、1-25頁、2018年3月。
 ②「仏神祭祀権と祭祀相続—飛鳥時代の仏教を再考して—」中川修著、『飛鳥乃風たより』第18号、1-6頁、2018年3月。
 ③「仏神の響きと僧尼令作音楽条」中川修著、『史聚』50、99-108頁、2017年3月。

道元徹心

- ①「近世比叡山における山修山学の理念継承の一面—『比叡山再興縁起』等の資料より—」道元徹心著、龍谷大学アジア仏教文化研究センター2017年度『研究報告書』、2017年3月。*5
 ②書評「大久保良峻著『最澄の思想と天台密教』」道元徹心著、『日本思想史学』第48号、196-202頁、2016年9月。
 ③「円珍撰『法華論記』における「舍利」表現について」道元徹心著、『仏教学研究』第71号、29-46頁、2015年3月。

川添泰信

- ①「法然・親鸞・恵信尼・唯円における師弟の問題」川添泰信著、『真宗学』137・138合併号、1-20頁、2018年3月。
 ②真宗における実践について」川添泰信著、『木辺学会』第34号、35-46頁、2016年5月。
 ③「世の盲明をてらす」川添泰信著、『仏教家庭学校』第54巻2号(通巻320号)、12-15頁、2016年3月。
 ④「『選択本願念仏集』—プロローグ—」川添泰信著、『木辺学会』第33号、60-67頁、

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

2015年5月。

⑤「現代における真宗伝道について」, 川添泰信 著, 『木辺学会』第 33 号, 68-80 頁, 2015 年 5 月。

杉岡孝紀

①「親鸞思想と西田哲学(3)—逆対応の論理と〈衆生—仏〉の関係論—」, 杉岡孝紀 著, 『真宗学』137・138 合併号, 149-169 頁, 2018 年 3 月。

②「西田哲学と親鸞思想(2)—純粹経験の多義性について—」, 杉岡孝紀 著, 『真宗学』135 号, 1-20 頁, 2017 年 3 月。

③「親鸞思想の哲学的研究—西田幾多郎の純粹経験と親鸞の他力念仏—」, 杉岡孝紀 著, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2016年度『研究報告書』, 41-50 頁, 2017 年 3 月。

④「二河白道のころ」, 杉岡孝紀 著, 『宗教・文化研究所だより』第 61 号, 5-7 頁, 2015 年 7 月。

玉木興慈

①「釈尊と親鸞の伝道～浄土三部経の序分に見る釈尊の伝道教化～」, 玉木興慈 著, 『真宗学』第 137・138 合併号, 209-229 頁, 2018 年 3 月。

高田文英

①「『教行信証』報化二土の引文を読み解く——懈慢界説の歴史的帰趨——」, 高田文英 著, 『真宗学』137・138 合併号, 231-251 頁, 2018 年 3 月。

②「親鸞における憶念の解釈」, 高田文英 著, 『真宗学』134 号, 1-19 頁, 2016 年 3 月。

③「弁長・良忠上人の異義批判と親鸞聖人」, 高田文英 著, 『龍谷教学』50 号, 17-41 頁, 2015 年 12 月。

西谷 功

①「仏牙舍利, 韋駄天, 普陀山観音と宋代仏教文化—泉涌寺僧による「唐物」の請来と展開」, 西谷功 著, 『唐物—KARA-MONO』(金沢文庫), 97-102 頁, 2017 年 11 月。

②「泉涌寺の文化財—儀礼と信仰の視点から—」, 西谷功 著, 『國華』1458, 21-26 頁, 2017 年 4 月。

③「釈迦十六羅漢図」, 西谷功 著, 『國華』1458, 40-43 頁, 2017 年 4 月。

大谷由香

①”The Controversy Over the Nanshan Vinaya School in the Southern Song and Japan”, 大谷由香 著, 『印度学仏教学研究』第 66 卷第 3 号, 188-194 頁, 2018 年 3 月。

②「日宋交流と鎌倉期律宗義の形成」, 大谷由香 著, 『智山学報』67, 177-197 頁, 2018 年 3 月。

③「日本律宗からみた「四分律伝持の曇無徳部」成立時期」, 大谷由香 著, 『印度学仏教学研究』第 64 卷第 2 号, 559-564 頁, 2016 年 3 月。

グループ 1(通時的研究班)・ユニット B:近代日本仏教と国際社会

中西直樹

①「戦前期日本仏教のマライ半島布教」, 中西直樹 著, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2017年度『研究報告書』, 2018 年 3 月。

②「近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義」, 中西直樹 著, 『龍谷大学 佛教文化研究

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

所紀要』第55集, 2018年3月。

③「戦前期日本仏教のシンガポール布教」, 中西直樹 著, 『佛教史学研究』第59巻第2号, 2018年3月。

④「日本仏教の初期台湾布教(2)—占領地布教と各種付帯事業の展開—」, 中西直樹 著, 『龍谷大学 仏教文化研究所紀要』54, 2016年3月。

⑤「日本仏教の南清進出の背景と布教実態—一九〇〇年厦門事件までの状況を中心に—」, 中西直樹 著, 『龍谷大学論集』第487号, 75-101頁, 2016年3月。

⑥「大正期台湾布教の動向と南瀛仏教」, 中西直樹 著, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2015年度『研究報告書』, 29-49頁, 2016年3月。

⑦「一九〇〇年厦門事件追考」, 中西直樹 著, 『仏教をめぐる日本と東南アジア』, 143-159頁, 2016年3月。

⑧「台湾別院跡(西本願寺広場)訪問記」, 中西直樹 著, 『本願寺史料研究所報』49号, 2015年6月。

能仁正顕

①「大乘仏教の展開と仏説論」, 能仁正顕 著, 『研究紀要』(京都女子大学宗教・文化研究所)第31号, 43-61頁, 2018年3月。

②「チベットの仏伝図「釈尊絵伝」について—阿闍世の教化と仏陀の涅槃—」, 能仁正顕 著, 『仏教文化研究所紀要』55, 1-35頁, 2017年3月。

③“On “Shakuson Eden,” a Tibetan Illustrated Biography of the Buddha: The Edification of Ajātaśatru and the Nirvāṇa of the Buddha,” Masaaki Nohnin, *Journal of World Buddhist Cultures -Inauguralpreparatoryissue-*, P.3-23. 2016. 11.

市川良文

①「龍谷大学図書館蔵【寄託本】大谷光瑞師書簡について」, 市川良文 著, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2017年度『研究報告書』, 2018年3月。

林 行夫

①「タイ仏教徒社会の宗教実践—その動態の諸相」, 『愛知大学人文社会学研究所報告書・南伝上座仏教と現代』, 54-110頁(本文)+137-166頁(討論), 2017年3月。

②” Fission of the Hermitage in search of Dharma: A Case from KC in Northeast Thailand 2006-2014” Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space (Kobayashi, S., Hayashi, Y. et al. eds.)P.99-126, 2017.3.

③”Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space: Comparative Case Studies of Cambodia, Thailand, Laos, Yunnan (China), Myanmar and Sri Lanka” Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space (Kobayashi, S., Hayashi, Y. et al. eds.)P.1-20, 2017. 3.

④「境域の東南アジア上座仏教」, パーリ学仏教文化学会編『パーリ仏教文化事典』めこん, 160-163頁, 2016年10月。

⑤「タイ人はなぜ出家するのか」, 『ナムチャイノーンピー』97・98, 7頁, 2016年8月。

⑥「上座仏教徒が伝えること—東南アジア地域の調査から」, 『龍谷史壇』139号, 26-40頁, 2016年7月。

⑦「明治期日本人留学僧にみる日=タイ仏教「交流」の諸局面」, 『仏教をめぐる日本と東南アジア地域』(アジア遊学 196号, 勉誠出版), 9-28頁, 2016年3月。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

大澤広嗣

- ① 오사와 코지저, 이화진 옮김「김효경과 다이쇼대학 종교학연구실」, 大澤広嗣 著, 『근대서지』제 15 호(「金孝敬と大正大学宗教学研究室」, 大澤広嗣 著・李和珍 訳, 『近代書誌』第 15 号, ソウル・近代書誌学会), 329-340 頁, 2017 年 6 月。
- ②「清水霊園イスラーム墓地と宗教法人」, 大澤広嗣 著, 『季刊清水』(49), 40-43 頁, 2016 年 12 月。
- ③「第二次世界大戦下の南方仏陀祭と政治宣伝」, 大澤広嗣 著, 『仏教文化学会紀要』(25), 49-70 頁, 2016 年 11 月。
- ④「アメリカ施政下の沖縄における宗教制度——琉球政府の施策と行政」, 大澤広嗣 著, 『武蔵野大学仏教文化研究所紀要』第 32 号, 85-117 頁, 2016 年 3 月。

野世英水

- ①「従軍布教」, 野世英水 著, 『仏教史研究ハンドブック』, 328-329 頁, 2017 年 2 月。
- ②書評「川邊雄大著『東本願寺中国布教の研究』」, 野世英水 著, 『中国研究月報』, 39-42 頁, 2016 年 8 月。

グループ 2(共時的研究班)・ユニット A: 現代日本仏教の社会性・公益性**若原雄昭**

- ①「インド的正統性の所在—サーヤナ著『リグ・ヴェーダ註』序章より—」若原雄昭 著, 『龍谷大学論集』第 491 号, 2018 年 2 月。
- ②” The Four Embracing Practices (saGgrahavastu): From their Origin and Development in India to Dogen’s Appreciation,” Yusho Wakahara, Journal of World Buddhist Cultures I, P.139-163, 2018. 3.

岡本健資

- ①「Dhammapada-Atthakathā における「三道宝階降下」について」岡本健資 著, 『パーリ学仏教文化学』第 31 号, 51-72 頁, 2017 年 12 月。

野呂 靖

- ①「明恵における宋代仏教の受容について」, 野呂靖 著, 『印度学仏教学研究』第 66 巻第 2 号, 122-128 頁, 2018 年 3 月。
- ②「明恵門下における密教理解—唐招提寺蔵『六大無碍義抄』解説並びに下帖翻刻—」, 野呂靖 著, 『日本古写経研究所研究紀要』2, 1-27 頁, 2017 年 3 月。
- ③「普一國師志玉の華嚴学—『五教章視聴記』を中心に—」, 野呂靖 著, 『印度学仏教学研究』, 第 64 号第 2 号, 72-78 頁, 2015 年。
- ④「中世真言宗における諸宗教学の受容について—富山大学附属図書館ヘルン文庫所蔵『王心鈔』翻刻—」, 野呂靖 著, 『仏教学研究』71, 47-81 頁, 2015 年。

グループ 2(共時的研究班)・ユニット B: 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望**高田信良**

- ①「本願力回向の宗教——科学・文化・宗教多元のなかで——」, 高田信良 著, 『中央仏教学院紀要』28, 17-33 頁, 2017 年 3 月。

那須英勝

- ①「『私聚百因縁集』の「仏法王法縁起由来」に見える中世日本仏教僧の重層的世界観」, 那

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

須英勝 著、『真宗学』第 137・138 合併号, 107-124 頁, 2018 年 3 月。

②「「あめの下にもりてきこゆることもあり」—『今物語』に語られた日本中世の僧侶の暮らし—」, 那須英勝 著, 『龍谷大学論集』第 490 巻, 2017 年 11 月。

③「棲浄斎誓鑑師(一七五三-一八二九)「解魔弁」考」, 那須英勝 著, 『宗教研究』90(別冊), 290-292 頁, 2017 年 3 月。

④「ヨーロッパの妙好人と「無対辞」の思想—ハリー・ピーパー師の事績を通して—」, 那須英勝 著, 『真宗学』第 133 号, 1-15 頁, 2016 年 3 月。

⑤「宗教間教育の実践とその評価—海外の事例との比較を通して—」, 那須英勝 著, 『京都宗教論叢』10 号, 32-35 頁, 2016 年 3 月。

本多 彩

①「アメリカ仏教会における食文化の変遷」, 本多彩 著, 『宗教研究』90(2), 157-182 頁, 2016 年 9 月。

桂 紹隆

①“A Report on the Study of Sanskrit Manuscript of the Pramāṇa- samuccayaṭīkā Chapter 4, Recovering the Example Section of the Nyāyamukha”, 桂紹隆 著, 『印度学仏教学研究』第 64 巻第 3 号, 195-203 頁, 2016 年。

②「仏教研究の最前線～龍谷大学から世界へ～」, 桂紹隆 著, 『仏教文化研究所紀要』54, 162-180 頁, 2016 年。

佐藤智水

①「小川貫弍収集『龍門初拓一千本』の整理と内容紹介」, 佐藤智水 主編, 『東洋史苑』82, 1-40 頁, 2017 年 3 月。

廣田デニス

①“Revelation and Awakening in Shinran,” Dennis Hirota, Hōrin: vergleichende Studien zur japanischen Kultur, Eko-Haus, Düsseldorf, 2017.

金澤 豊

①「瞋恚と忍辱—『入菩提行論』における苦の受容を中心に—」, 金澤豊 著, 『真宗研究』61, 62-77 頁, 2017 年 1 月。

<図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

グループ 1(通時的研究班)・ユニットA: 日本仏教の形成と展開

楠 淳證(センター長)

①『南都学北嶺学の世界—法会と仏道—』(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書6), 楠淳證 編, 法蔵館, 全 288 頁, 2018 年 3 月。* 25

②『回峰行と修験道—聖地に受け継がれし伝灯の行—』, 楠淳證 編, 法蔵館, 全 114 頁, 2016 年 10 月。* 27

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

藤丸 要

『華厳一無礙なる世界を生きる―』藤丸要編著, 自照出版, 2016年9月, そのうち19-34頁, 236-259頁を担当。

中川 修

①『仏教史研究ハンドブック』, 仏教史学会 編, 法蔵館, 全410頁, 2017年2月, そのうち「僧尼令とその実態」(160-161頁)を担当。

川添泰信

①『智慧の潮―親鸞の智慧・全体性・社会性―』, ケネス・タナカ 編, 武蔵野大学出版会, 全342頁, 2017年1月, そのうち「親鸞における人間様態の問題―三哉が明かすもの」(196-216頁)を担当。

②『親鸞聖人の生き方』(別冊宝島2466), 川添泰信 編集協力, 宝島社, 12-13頁, 60-80頁, 2016年5月。

③『選擇註解鈔』, 川添泰信 責任編集, 龍谷大学善本叢書32, 全750頁, 2016年3月, そのうち「選擇註解鈔概説」を担当。

④『半身の死を生きる』, 谷本光男・川添泰信 著, 自照社出版, 全306頁, 2016年1月。

玉木興慈

①『南都学北嶺学の世界―法会と仏道―』(アジア仏教文化研究叢書6), 楠淳證 編, 法蔵館, 全288頁, 2018年3月, そのうち「親鸞と戒律～無戒名字の比丘～」(191-209頁)を担当。*25

②『親鸞と浄土仏教の基礎的研究』, 川添泰信 編, 永田文昌堂, 2017年12月, そのうち「大悲伝普化と大悲弘普化～「行ずることもなほかたし」と関連して～」(325-352頁)を担当。

③『浄土思想の成立と展開』, 大田利生 編, 永田文昌堂, 2017年4月, そのうち『教行信証』「真仏土巻」における『大阿弥陀経』の引用意図」(237-256頁)を担当。

高田文英

①『親鸞聖人の教え』, 勸学寮 編, 本願寺出版社, 全334頁, 2017年3月, そのうち第2章「阿弥陀仏とその本願」(32-70頁)を担当。

西谷 功

①『南宋・鎌倉仏教文化史論』, 西谷功 著, 勉誠出版, 全844頁, 2018年2月。

グループ1(通時的研究班)・ユニットB:近代日本仏教と国際社会**中西直樹**

①『編集復刻版 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第IV期 全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』全2巻(第8～9巻)(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書5), 中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣 編, 不二出版, 全782頁, 2018年2月。*9

②『仏教英書伝道のあけぼの』(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書3), 中西直樹・嵩満也・那須英勝 編著, 法蔵館, 全415頁, 2018年1月。*28

③『編集復刻版 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第III期 中国仏教との提携』全2

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

巻(第6～7巻)(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書4), 中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣 編, 不二出版, 各477・258頁, 2017年9月。*9

④『近代西本願寺を支えた在家信者—評伝松田甚左衛門—』, 中西直樹 著, 法蔵館, 全167頁, 2017年9月。

⑤『令知会と明治仏教』, 中西直樹・近藤俊太郎 編, 不二出版, 全197頁, 2017年6月。

⑥『編集復刻版 仏教植民地布教史資料集成〈満州・諸地域編〉第2期』第2回配本全3巻(第3～5巻), 中西直樹・野世英水・大澤広嗣 編・監修, 三人社, 各509・526・414頁, 2017年6月。

⑦『編集復刻版 仏教植民地布教史資料集成〈満州・諸地域編〉第1期』第1回配本全2巻(第1～2巻), 中西直樹・野世英水・大澤広嗣 編・監修, 三人社, 全815頁, 2016年12月。

⑧『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第Ⅱ期 南方仏教圏との交流』(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書2), 中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣 編, 不二出版, 全1298頁, 2016年10月。*9

⑨『雑誌『國教』と九州真宗』(全3巻+別冊1), 中西直樹 編・解題, 不二出版, 資料編2巻1274頁, 別冊115頁, 2016年7月。

⑩『植民地台湾と日本仏教』, 中西直樹 著, 三人社, 全358頁, 2016年6月。

⑪『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第Ⅰ期 汎太平洋仏教青年会大会関係資料』(全2巻), (龍谷大学アジア仏教文化研究叢書1), 中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣 編, 不二出版, 全1008頁, 2016年2月。*9

⑫『仏教植民地布教史資料集成(台湾編)』(全6巻), 中西直樹 編・解題, 三人社, 2085頁, 2016年1月・6月。

⑬『仏教国際ネットワークの源流—海外宣教会(1888年～1893年)の光と影—』, 中西直樹・吉永進一 著, 三人社, 全232頁, 2015年6月。

岩田真美

①『戦後歴史学と日本仏教』, オリオン・クラウタウ 編, 法蔵館, 全381頁, 2016年11月, そのうち「森龍吉——仏教近代化論と真宗思想史研究」(185-204頁)を担当。

②『近代仏教スタディーズ』, 大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎 編, 法蔵館, 全289頁, 2016年4月, そのうち「西本願寺系——禁酒から改革、そして国際化へ」(154-158頁)を担当。

③『近代仏教スタディーズ』, 大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎 編, 法蔵館, 全289頁, 2016年4月, そのうち「近代真宗史の研究——近代仏教の中心軸」(217-218頁)を担当。

三谷真澄

①『「世界」へのまなざし～最古の世界地図から南方熊楠・大谷光瑞へ』(龍谷大学アジア仏教文化研究センター文化講演会シリーズ2), 三谷真澄 編, 法蔵館, 全113頁, 2017年12月, そのうち「はじめに」および「大谷光瑞の世界認識」(81-113頁)を担当。*29

②『大谷光瑞のトルコでの動向—「仏教」と「農業」のあいだ』(龍谷大学国際社会文化研究所研究成果報告書), 三谷真澄・ヤマンラール水野美奈子 編, 龍谷大学国際社会文化研究所(印刷製本:真陽社), 全149頁, 2016年3月。*10

③” Haz. Demirağ :The Turkish Japanese Factory – Türk Japon Fabrikası,Bursa’ya Dokunan Tarih ”1928” History Woven in Bursa, Papyrus Sahaf, Istanbul, Turkey”

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

林 行夫

- ①『功德と喜捨と贖罪—宗教の政治経済学』, 伊東利勝 編, 愛知大学人文社会学研究所, 2018年3月, そのうち「人を結ぶ仏教功德と精霊祭祀の〈経済〉」を担当。
- ②『泰国日本人納骨堂 80周年記念誌』, 高野山真言宗タイ国開教留学僧の会 編, 全1143頁, 2017年11月, そのうち「タイの上座仏教徒から世界を観る営み」(216-228頁)を担当。
- ③Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space, Kobayashi S. Sasagawa H. Takahashi M.との共編著, Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University, 全240頁, 2017年3月。
- ④『生きている文化を人に学ぶ』(シリーズ「情報とフィールド科学」第5巻), 林行夫 著, 京都大学学術出版会, 全80頁, 2017年3月。
- ⑤『衝突と変奏のジャスティス(相関地域研究叢書3)』, 谷川竜一・原正一郎・林行夫・柳澤雅之 編, 青弓社, 全260頁, 2016年3月, そのうち「生きている宗教と現代世界—東南アジア仏教徒社会からの考察」(227-250頁)を担当。
- ⑥『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第I期 汎太平洋仏教青年会大会関係資料』(全2巻), (龍谷大学アジア仏教文化研究叢書1), 中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣 編, 不二出版, 全1008頁, 2016年2月。*9

大澤広嗣

- ①『泰国日本人納骨堂 80周年記念誌』, 高野山真言宗タイ国開教留学僧の会 編, 全1143頁, 2017年11月, そのうち「昭和前期の仏教界とタイ——藤波大圓と山本快龍の視察」(229-269頁)を担当。
- ②『編集復刻版 仏教植民地布教史資料集成〈満州・諸地域編〉第2期』第2回配本全3巻(第3~5巻), 中西直樹・野世英水・大澤広嗣 編・監修, 三人社, 各509・526・414頁, 2017年6月。*9
- ③『基礎ゼミ 宗教学』, 大谷栄一・川又俊則・猪瀬優理 編, 世界思想社, 2017年4月, そのうち「第3章 社会にとって宗教団体とはどのような存在か?——宗教法人法, 政教分離, 宗教団体の社会参加」(23-32頁)を担当。
- ④『仏教史研究ハンドブック』, 仏教史学会編, 法蔵館, 全410頁, 2017年2月, そのうち「平和運動」を担当。
- ⑤『編集復刻版 仏教植民地布教史資料集成〈満州・諸地域編〉第1期』第1回配本全2巻(第1~2巻), 中西直樹・野世英水・大澤広嗣 編・監修, 三人社, 全815頁, 2016年12月。*9
- ⑥『戦後歴史学と日本仏教』, オリオン・クラウタウ編, 法蔵館, 全381頁, 2016年11月, そのうち「古田紹欽——大拙に近侍した禅学者」(119-138頁)を担当。
- ⑦『近代仏教スタディーズ』, 大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎 編, 法蔵館, 全289頁, 2016年4月, そのうち「海外布教する仏教教団」(47-50頁), 「世界を探検する仏教者たち」(51-54頁), 「日本仏教と植民地主義—仏教は植民地で何をしたのか?—」(227-228頁), 「博物館—仏教の仏教者の足跡をたずねて」(245-247頁)を担当。
- ⑧『仏教をめぐる日本と東南アジア地域』, 大澤広嗣 編, 勉誠出版, 全244頁, 2016年4月。
- ⑨『戦時下の日本仏教と南方地域』, 大澤広嗣 著, 法蔵館, 全398頁, 2015年12月。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

浅田正博

- ①『善導大師著『般舟讚』現代語訳』, 浅田恵真 著, 永田文昌堂, 全 165 頁, 2017 年。
- ②『仏教における実践を問う(二)—社会的実践の歴史と展望—』, 日本佛教学会 編, 法蔵館, 全 515 頁, 2017 年 8 月, そのうち「セッション NO8 の発表に対するコメント」(289-295 頁)を担当。
- ③『お念仏の真実に気づく』, 天岸浄圓・浅田恵真 著, 自照社出版, 全 106 頁, 2016 年 11 月, そのうち「諸行無常から仏様の真実の世界に…九條武子様之歌より…」(51-103 頁)を担当。
- ④『回峰行と修験道—聖地に受け継がれし伝灯の行—』, 楠淳證 編, 法蔵館, 全 114 頁, 2016 年 10 月, そのうち「若き日の親鸞聖人」(70-114 頁)を担当。* 27
- ⑤『『般舟三昧行道往生讚』(般舟讚)講読』, 浅田恵真 著, 永田文昌堂, 全 680 頁, 2016 年 7 月。

宮治 昭

- ①『アジア仏教美術論集: 中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)』, 宮治昭 責任編集, 中央公論美術出版, 全 591 頁, 2017 年 2 月, そのうち「総論 中央アジアの仏教美術」を担当。
- ②『華嚴—無礙なる世界を生きる』, 藤丸要 編, 自照社出版, 全 400 頁, 2016 年 9 月, そのうち『華嚴経』の美術—インド・ガンダーラを中心に—(185-211 頁)を担当。
- ③『仏像を読み解く: シルクロードの仏教美術』, 宮治昭 著, 春秋社, 全 296 頁, 2016 年 6 月。
- ④『アフガニスタン流出文化財報告書: 保護から返還へ』, 井上隆史・狩野麻里子 責任編集, 東京芸術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会, 全 151 頁, 2016 年 3 月, そのうち「バーミヤーン東大仏壁画について—その図像を読む—“Mural Paintings on the Ceiling of the East Great Buddha of Bamiyan: Interpreting its Iconography.”(116-124 頁, 125-130 頁)を担当。

グループ 2(共時的研究班)・ユニットA: 現代日本仏教の社会性・公益性**藤 能成**

- ①『智慧の潮—親鸞の智慧・全体性・社会性—』, ケネス・タナカ 編, 武蔵野大学出版会, 全 342 頁, 2017 年 1 月, そのうち「仏道としての浄土真宗—「信心の智慧」の意味—(45-66 頁)を担当。
- ②『妙好人研究集成』, 菊藤明道 編, 法蔵館, 全 732 頁, 2016 年 10 月, そのうち「妙好人と智慧—柳宗悦「無対辞文化」が投げかけるもの」(613-634 頁)を担当。
- ③『華嚴—無礙なる世界を生きる』, 藤丸要 編, 自照社出版, 全 400 頁, 2016 年 9 月, そのうち「新羅・元暁における華嚴と浄土」(185-211 頁)を担当。
- ④『仏教と心理学の接点—浄土心理学の提唱—』, 藤能成 編・著, 法蔵館, 全 260 頁, 2016 年 7 月, そのうち「浄土真宗とスピリチュアリティ—虚無感をいかに克服する」(83-107 頁)を担当。

若原雄昭

- ①『変貌と伝統の現代インド——アンベードカルと再定義されるダルマ』(RINDAS 叢書), 龍

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

谷大学南アジア研究センター 編, 2018 年 3 月, そのうち「ダルマの相続者」(193-212 頁)を担当。

岡本健資

①『アジア仏教美術論集:中央アジアⅡ(チベット)』, 森雅秀責任編集, 中央公論美術出版, 全 576 頁, 2018 年 2 月, そのうち「多田等観請来「釈迦牟尼世尊絵伝」に関する考察」(369-391 頁)を担当。

野呂 靖

①『21 世紀元暁学の意味と展望—元暁撰述文献の系譜学的省察—』, 韓国・東国大学校編, 2017 年 5 月, そのうち 312-335 頁を担当。

②『華嚴—無礙なる世界を生きる』, 藤丸要 編, 自照社出版, 全 400 頁, 2016 年 9 月, そのうち「中世東大寺における講説」(285-305 頁)を担当。

グループ 2(共時的研究班)・ユニット B:多文化共生社会における日本仏教の課題と展望 高田信良

①『多文化時代の宗教論入門』, 久松英二・佐野東生 編, ミネルヴァ書房, 全 272 頁, 2017 年 6 月, そのうち「第 9 章 イスラームと仏教の対話」のコメント「一神教の神」と「ブッダ」(231-233 頁)を担当。

那須英勝

①『仏教英書伝道のあけぼの』(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 3), 中西直樹・嵩満也・那須英勝 編, 法蔵館, 全 410 頁, 2018 年 2 月, そのうち文献解題 2(『A SHORT HISTORY OF THE TWELVE JAPANESE BUDDHIST SECTS』南條文雄著訳(英文), 和文タイトル:仏教十二宗綱要 発兌元:仏教書英訳出版舎 1886 年 12 月出版, 原著編集:小栗栖香頂), 文献解題 3(『TRUE SECT OF BUDDHISTS(英文真宗教旨 和文付)』(英文・和文), 英国領事ゼームス, ツループ君著 南條文雄・赤松連城同校, 発行者:船井政太郎 1888 年 5 月出版)を担当。* 28

②『妙好人研究集成』, 菊藤明道 編, 法蔵館, 全 732 頁, 2016 年 10 月, そのうち「ヨーロッパの妙好人と「無対辞」の思想—ハリー・ピーパー師の事績を通して—」(649-664 頁)を担当。

本多 彩

①『越境する「二世」—1930 年代アメリカの日系人と教育—』(同志社大学人文科学研究所研究叢書), 吉田亮 編著, 現代史料出版, 全 265 頁, 2016 年 3 月, そのうち「ワシントン州における日系二世の仏教教育」(129-152 頁)を担当。

桂 紹隆

①『龍樹『根本中頌』を読む』, 桂紹隆・五島清隆 著, 春秋社, 全 418 頁, 2016 年 10 月。

佐藤智水

①『北魏石刻造像銘目録:初稿』, 佐藤智水 主編, 科学研究費研究成果中間報告:基盤研究(B)研究代表者:佐藤智水「南北朝～隋代における造像銘の調査及び史料集成とその総

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

合的研究」, 全 62 頁, 2017 年 2 月。

廣田デニス

①『智慧の潮—親鸞の智慧・全体性・社会性—』, ケネス・タナカ編, 武蔵野大学出版会, 全 342 頁, 2017 年 1 月, そのうち「親鸞浄土教におけるホーリズムとその意義—ハイデガー哲学に照らして—」(171-193 頁)を担当。

②”Approaching Silence: New Perspectives on Shusaku Endo’s Classic Novel” Edited by Mark Dennis and Darren Middleton, Bloomsbury Academic, New York & London, “Discerning the Marshland of this World: Silence from a Japanese Buddhist Perspective” pp. 139-158, 2015

金澤 豊

①『死者／生者論—傾聴・鎮魂・翻訳』, 鈴木岩弓・磯前順一・佐藤弘夫 編, ペリカン社, 全 384 頁, 2018 年 3 月, そのうち「生者のざわめきを聴く—遺族の想いから生まれるもの—」(73-100 頁)を担当。

②『災害支援ハンドブック—宗教者の実践とその協働—』, 宗教者災害支援連絡会 編, 春秋社, 全 272 頁, 2016 年 6 月, そのうち「苦悩を抱える人々と共に居るといこと」(62-68 頁)を担当。

<学会発表>

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

グループ 1(通時的研究班)・ユニット A: 日本仏教の形成と展開

道元徹心

①龍谷大学アジア仏教文化研究センター, 道元徹心, 「近世比叡山における山修山学の理念-止観院蔵『比叡山再興縁起』等の史料より-」, 龍谷大学, 2018 年 1 月。*5

②龍谷大学アジア仏教文化研究センター, 道元徹心, 「天台論義資料への一視点—千観撰『法華三宗相對抄』・東大寺図書館蔵『天台宗一乗義秘要抄』を手掛かりに—」, 龍谷大学, 2017 年 1 月。

③ 龍谷大学仏教文化研究所, 道元徹心, 「『阿弥陀経略記』について」, 龍谷大学, 2017 年 3 月。

長谷川岳史

①第二屆 慈宗國際學術論壇(主催:慈氏學會(香港)), 長谷川岳史, 「玄奘的佛身觀」, 香港青年協會大廈 25 樓(香港), 2018 年 3 月。

②佛光山系統大學主催『2017 佛光山大學校長論壇』「論壇三」第一場, 長谷川岳史, 「宗教精神與大學發展」, 台湾 高雄 佛光山, 2017 年 11 月。

③京都女子大学宗教・文化研究所公開講座, 長谷川岳史, 「中国に残る曇鸞・道綽・善導の足跡」, 京都女子大学, 2016 年 9 月。

④採薪亭講座, 長谷川岳史, 「仏と我々はどこが違うのか?」, 東福寺即宗院, 2016 年 4 月。

⑤中央民族大学哲学与宗教学学院學術講座, 長谷川岳史, 「玄奘唯識思想的形成—《佛地經論》與《成唯識論》的翻譯意圖—」, 中央民族大学文華樓西 1326 會議室(中国・北京), 2016 年 3 月。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

⑥第二屆 中國華嚴國際學術研討會(主催:陝西師範大学宗教研究中心,(台湾)華嚴學會),長谷川岳史,「“盧舍那”與“釋迦”的異同問題—以《梵網經》的佛身解釋為中心—」,陝西師範大学8号楼(中国・西安),2015年10月。

杉岡孝紀

- ①2017年度大谷大学真宗学会大会講演,杉岡孝紀,「親鸞におけるメタファーと解釈」,大谷大学,2017年11月。
- ②龍谷大学校友会総会岐阜県支部(講演会),杉岡孝紀,「<寄り添う>ということ」,2015年7月。

玉木興慈

- ①京都女子大学宗教・文化研究所公開講座,玉木興慈,「信不具足の金言」,京都女子大学,2016年9月。
- ②中央仏教学院夏期真宗講座,玉木興慈,「これからの浄土真宗」,中央仏教学院,2016年7月。
- ③龍谷大学校友会こころの講座,玉木興慈,「仏の心に学ぶ～よきひとの仰せ～」,龍谷大学響都ホール校友会館,2016年7月。

高田文英

- ①龍谷大学アジア仏教文化研究センターグループ1ユニットA2016年度第11回学術講演会,高田文英,「親鸞と『往生要集』」,龍谷大学,2017年1月。
- ②龍谷大学仏教文化研究所第15回研究談話会,高田文英,「源信浄土教研究の現状について」,龍谷大学,2016年12月。

西谷 功

- ①龍谷大学アジア仏教文化研究センターグループ1ユニットA2017年度第6回学術講演会,西谷功,「知られざる宋代天台の儀礼と文化」,2018年3月。
- ②美術史学会東支部大会「唐物への新たな視線」,西谷功,「鎌倉時代における中国祖師肖像画の受容と宋式仏教儀礼」,神奈川県立金沢文庫,2017年12月。
- ③<能と仏教>研究会,西谷功,「泉涌寺仏牙舍利と謠曲<舍利>」,法政大学,2017年12月。
- ④科研「東アジア仏伝美術の諸様態」,西谷功,「いわゆる「苦行釈迦」とその儀礼」,東京大学,2017年7月。
- ⑤京都国立博物館「泉涌寺展」土曜講座,西谷功,「俊苧律師と泉涌寺」,京都国立博物館,2017年1月。
- ⑥連続講座「忍性菩薩を学ぶ」,西谷功,「泉涌寺創建と南都戒律復興運動」,神奈川県立金沢文庫,2016年12月。
- ⑦奈良国立博物館夏期講座,西谷功,「泉涌寺における宋代律宗の儀礼と文化」,奈良県文化会館国際ホール,2016年8月。
- ⑧れきはく講座,西谷功,「泉涌寺の仏像・仏画と儀礼」,大津市歴史博物館,2016年7月。

大谷由香

- ①東アジア仏教研究会年次大会,大谷由香,「南山宗の三観について」,2017年12月。
- ②第68回日本印度学仏教学会,大谷由香,「志玉口述『梵網古迹下巻聞書』にみる室町期戒壇院の戒律思想」,花園大学,2017年9月。

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

- ③第 68 回日本印度学仏教学会, 大谷由香, 「南宋代の南山宗義論争と日本」, 花園大学, 2017 年 9 月。
- ④第 61 回智山教学大会, 大谷由香, 「日宋交流と鎌倉期律宗義の形成」, 2017 年 5 月。
- ⑤日本仏教総合研究学会第 14 回大会, 大谷由香, 「日宋間における菩薩戒増受に関する議論について」, 山形大学, 2015 年 12 月。
- ⑥大正大学特別講義, 大谷由香, 「日本律宗の歴史と教学」, 大正大学, 2015 年 11 月。
- ⑦第 66 回日本印度学仏教学会, 大谷由香, 「日本僧からみた「曇無徳部 (Dharmaguptaka)」, 高野山大学, 2015 年 9 月。
- ⑧律宗青年研修会平成 27 年度研究会, 大谷由香, 「唐招提寺における受戒儀式変遷について」, 唐招提寺, 2015 年 7 月。

グループ 1(通時的研究班)・ユニット B:近代日本仏教と国際社会

中西直樹

- ①筑紫女学園創立 110 周年・咸宜園開塾 200 年記念特別研究会(主催:筑紫女学園大学人間文化研究所), 中西直樹, 「水月哲英」, 筑紫女学園大学, 2018 年 2 月。
- ②龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 中西直樹, 「明治期の本願寺派学校制度—高輪大学研究プロジェクト始動に向けて—」, 龍谷大学, 2018 年 1 月。
- ③龍谷大学アジア仏教文化研究センターワークショップ・龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 中西直樹, 「日本仏教によるアジア布教史概観」, 龍谷大学, 2017 年 7 月。
- ④龍谷大学アジア仏教文化研究センターワークショップ・龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 中西直樹, 「戦前期日本仏教のシンガポール布教」, 龍谷大学, 2017 年 7 月。
- ⑤龍谷大学アジア仏教文化研究センターワークショップ・龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 中西直樹, 「近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義」, 龍谷大学, 2017 年 7 月。
- ⑥龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 中西直樹, 「九條武子と女子大学設立運動」, 龍谷大学, 2017 年 2 月。
- ⑦龍谷大学仏教文化研究所研究談話会, 中西直樹, 「仏教英書刊行の濫觴—オルコット『仏教問答』の刊行とその影響—」, 龍谷大学, 2016 年 9 月。
- ⑧龍谷大学アジア仏教文化研究センターワークショップ・龍谷大学仏教文化研究所研究談話会, 中西直樹, 「真宗布教近代化の一断面—本願寺派「特殊布教」の成立過程を中心に—」, 龍谷大学, 2016 年 8 月。
- ⑨京都大学地域研究統合情報センターCIAS「仏教をめぐる日本と東南アジア地域—断絶と連鎖の総合的研究」研究会, 中西直樹, 「十五年戦争下の台湾宗教施策と日本仏教」, 京都大学地域研究統合情報センターCIAS, 2016 年 2 月。
- ⑩龍谷大学仏教文化研究所研究談話会、龍谷大学アジア仏教文化研究センター研究発表, 中西直樹, 「仏教雑誌にみる大正期の台湾布教」, 龍谷大学, 2016 年 2 月。
- ⑪龍谷大学仏教文化研究所研究談話会、龍谷大学アジア仏教文化研究センター研究発表, 中西直樹, 「1900 年厦門事件追考—真宗大谷派の事件関与と世論対応を中心に—」, 龍谷大学, 2015 年 9 月。
- ⑫京都大学地域研究統合情報センターCIAS「仏教をめぐる日本と東南アジア地域—断絶と連鎖の総合的研究」研究会, 中西直樹, 「日本仏教の南清進出とその挫折—厦門事件前後の大谷派の動向を中心に—」, 京都大学地域研究統合情報センターCIAS, 2015 年 7 月。

岩田真美

- ①日本宗教学会第 76 回学術大会(パネル「仏教における〈教化〉の諸相—近世から近代へ

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

—)], 岩田真美, 「明治期の妙好人伝と女性教化」, 東京大学, 2017年9月。

②American Academy of Religion, Mami Iwata, “The Shinzoku Nitai Doctrine and Jōdo Shinshū in Meiji Japan,” Convention Center, San Antonio, Texas, USA, 2016. 11.

能仁正顕

①Symposium: Buddhism in shaping India–Japan Relations, Masaaki Nohnin, “Otani Kozui and India: Seeking the Origin of the Eastward Spread of Buddhism,” Ryukoku University, 2017. 12.

②旅順博物館建館百年記念国際学術検討会「シルクロードと新疆出土文献」, 能仁正顕, 「チベットの仏伝図『釈迦牟尼世尊絵伝』にみられる阿闍世王教化説話の特色」, 旅順博物館, 2017年11月。

③The 6th Beijing International Seminar on Tibetan Studies, Masaaki Nohnin, “A Research for Study of Tibetan Buddhist Culture in Japan: On a work in Tada Tohkan’s Collection,” 中国蔵学研究中心(China Tibetology Research Center), 北京, 2016年8月。

三谷真澄

①国際学術研討会「絲綢之路與新疆出土文献」(共催: 旅順博物館・北京大学・龍谷大学), 三谷真澄, 「旅順博物館所蔵トルファン出土仏典研究と龍谷大学」, 大連医科大学, 2017年11月。

②龍谷大学アジア仏教文化研究センター2016年度文化講演会, 三谷真澄, 「大谷光瑞の世界認識」, 龍谷大学, 2017年。* 29

③国際シンポジウム「中央アジア出土資料のデジタルアーカイブ～その現状と課題～」, 三谷真澄, 「文献資料のデジタルアーカイブの意義～大谷探検隊とドイツトルファン隊の文字資料調査の立場から」, 龍谷大学, 2016年11月。

林 行夫

①Mahachulalongkornrajavidhya and The National Office of Buddhism in Thailand, The 17th National Conference and the 1st International Conference on the “Ethics and Sustainable Development,” Yukio Hayashi, “What Japanese Monks Observed and Considered the Thai Buddhism,” Mahachulalongkornrajavidhya, Ayutthaya, Thailand, 2018. 1.

②愛知大学人文社会学研究所主催公開講座『功德と喜捨と贖罪—宗教の政治経済学』(全5回), 林行夫, 「人を結ぶ仏教功德と精霊祭祀の〈経済〉」(第2回講座), 愛知大学, 2017年6月。

③愛知大学人文社会学研究所ワークショップ「南伝上座仏教の現代」, 林行夫, 「タイ仏教徒社会の宗教実践—その動態の諸相」, 愛知大学, 2016年10月。

④Cambodia, Japan and Thailand International Seminar on Theravada Buddhist Cultures in Mainland Southeast Asia, Yukio Hayashi, “Fission of the Hermitage in search of Dharma: A Case from KC in Northeast Thailand 2006–2014.” Auditorium, Royal University of Fine Arts, Phnom Penh, Cambodia, 2016. 9.

⑤Cambodia, Japan and Thailand International Seminar on Theravada Buddhist Cultures in Mainland Southeast Asia, Yukio Hayashi, “The Scope of the Project of Mapping Buddhist Cultures among Theravadin in Time and Space: Comparative Case Studies of Cambodia, Thailand, Laos, Yunnan (China), Myanmar and Sri Lanka.” Auditorium, Royal University of Fine Arts, Phnom Penh, Cambodia, 2016. 9.

⑥京都大学地域研究統合情報センター10周年記念シンポジウム「〈地域〉を測量る—現代世界への提言」, 林行夫, 「趣旨説明」および「制度の隙間の宗教的なる営み」, 京都大学,

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

2016年4月。

⑦日本タイクラブ第6回公開フォーラム, 林行夫, 「タイの人はなぜ出家するのか?」(基調講演), 大阪本町「綿業会館」, 2016年2月。

大澤広嗣

①龍谷大学仏教文化研究所仏教文化セミナー, 大澤広嗣, 「財団法人朝鮮仏教団の留学生派遣と宗教民族学者の金孝敬」, 龍谷大学, 2017年7月。

②「김효경과 다이쇼대학 종교학연구실」, 大澤広嗣, 근대서지학회「김효경저작집 출판기념 학술대회」, 2017년 6월(「金孝敬と大正大学宗教学研究室」, 近代書誌学会(韓国)主催「金孝敬著作集出版記念学術大会」, 2017年6月)。

③第67回佛教史学会学術大会, 大澤広嗣, 「新旧公益法人制度と近現代の仏教界」, 大谷大学, 2016年12月。

④龍谷大学アジア仏教文化研究センターグループ1ユニット B2016年度第2回ワークショップ, 大澤広嗣, 「近現代の宗教界と公益法人制度—仏教婦人会の法人化を中心に—」, 龍谷大学, 2016年11月。

⑤日本宗教学会第75回学術大会, 大澤広嗣, 「民法による宗教系社団・財団法人の史的意義」, 早稲田大学, 2016年9月。

⑥日本宗教学会第74回学術大会, 大澤広嗣, 「旧外地法と宗教制度」, 創価大学, 2015年9月。

宮治 昭

①第46回奈良国立博物館夏季講座—地獄・極楽と浄土信仰の美術—, 宮治昭, 「仏教の世界観—生死輪廻図を中心に—」, 奈良県文化会館国際ホール, 2017年8月。

②中国人民大学シルクロード特別講演, 宮治昭, 「バーミヤーン美術と東西交流」, 中国人民大学, 2017年6月。

③中国人民大学シルクロード特別講演, 宮治昭, 「バーミヤーンの石窟構造と壁画」, 中国人民大学, 2017年6月。

④中日文化センター講座, 宮治昭, 「阿弥陀如来の信仰と美術(3)—浄土教の隆盛—日本—」, 中日文化センター, 2015年12月。

⑤中日文化センター講座, 宮治昭, 「阿弥陀如来の信仰と美術(2)—中国における阿弥陀信仰の発展—」, 中日文化センター, 2015年11月。

⑥中日文化センター講座, 宮治昭, 「阿弥陀如来の信仰と美術(1)」, 中日文化センター, 2015年10月。

⑦兩岸歴史文化研習会, 宮治昭, 「中央アジアの石窟美術—バーミヤーンとキジルを中心に—」, 敦煌研究院, 2015年10月。

野世英水

①日本宗教学会, 野世英水, 「近代真宗本願寺派教団と後期関東別院」, 早稲田大学, 2016年9月。

グループ2(共時的研究班)・ユニットA:現代日本仏教の社会性・公益性

若原雄昭

①International Celebration of 2560th Buddha Jayanti and International Conference on the Lumbini Nepal: the Birth Place of Lord Buddha and the Fountain of Buddhism and World

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

Peace, Yusho Wakahara, "Nepal's Contribution to the Modern Buddhist Academe: Reassessing Nepalese Sanskrit Manuscripts Kept in Japan", Kathmandu, Nepal, 2016. 5.

②International Celebration of 2560th Buddha Jayanti and International Conference on the Lumbini Nepal: the Birth Place of Lord Buddha and the Fountain of Buddhism and World Peace, Yusho Wakahara, "Svasti NepAlebhyaH: A Keynote Speech", Kathmandu, Nepal, 2016. 5.

岡本健資

①龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際シンポジウム「チベットの宗教文化と梵文写本研究」(共催: 龍谷大学仏教文化研究所・中国蔵学研究中心・龍谷学会), 岡本健資, 「多田等観請来「釈迦牟尼世尊絵伝」に描かれるムクターラターの物語」, 龍谷大学, 2017年12月。

②2017年度第2回中央アジア科研全体研究会「観心十法界図と地獄」, 岡本健資, 「『釈迦牟尼世尊絵伝』に描かれる「デーヴァダッタの墮地獄」について」, 龍谷大学, 2017年7月。

③パリー学仏教文化学会第31回学術大会, 岡本健資, 「Dhammapada-Aṭṭhakathāにおける「三道宝階降下」について」, 武蔵野大学, 2017年5月。

長上深雪

①日本仏教社会福祉学会第52回大会, 長上深雪, シンポジウム「社会福祉法以後の課題と仏教社会福祉」におけるコメンテーター, 2017年9月。

野呂 靖

①仏教と自死に関する国際シンポジウム, 野呂靖, 「日本における自死・自殺用語の用例と自殺観の変遷」, 龍谷大学, 2017年11月。*30

②日本印度学仏教学会第68回大会パネル発表報告, 野呂靖, 「志玉の『華嚴五教章』講説と中世根来寺の華嚴学」, 花園大学, 2017年9月。

③日本印度学仏教学会第68回大会, 野呂靖, 「明恵における宋代仏教の受容について」, 花園大学, 2017年9月。

④宝法義林第2回国際シンポジウム, 野呂靖, 「華嚴僧は往生できるか—尊玄とその周辺—」, フランス, コレージュ・ド・フランス, 2017年9月。

⑤国際シンポジウム「21世紀元暁学の意味と展望」, 野呂靖, 「元暁『勝鬘経疏』逸文の基礎的研究」, 韓国・東國大學校, 2017年5月。

⑥龍谷大学アジア仏教文化研究センター公開シンポジウム「明恵と高山寺」, 野呂靖, 「明恵と高山寺の教学—宋版『華嚴五教章』の受容をめぐって—」, 龍谷大学, 2016年6月。

グループ2(共時的研究班)・ユニットB: 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

高田信良

①2017年度伊勢国際宗教フォーラム「宗教とことば—祈りの言葉・唱え言葉・動かす言葉—」, 高田信良, 「南無って, 祈り? 願い? 仏の呼び声?」, 皇學館大学, 2017年10月。

②第24回「真宗教学学会」講演会, 高田信良, 「「本願力回向宗教」の宗祖、親鸞聖人」, しんらん交流館, 京都, 2016年11月。

那須英勝

①Shin-Buddhist, Muslim, Christian Trialogue, No. 2: Evil and Self-Awareness, Eisho Nasu, "Karmic Evil (悪業 akugō), Sin, Suffering, and Predestination: A Shin-Buddhist Perspective,"

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

Muenster University (Stadthote Münster), 2017.7.

②18th Biennial Conference of the International Association of Shin Buddhist Studies, Eisho Nasu, “Discarding Self to Benefit Others Alone: Genshin’s Reformulation of Bodhicitta as Selfless” Great Compassion,” Musashino University, 2017. 7.

③龍谷大学アジア仏教文化研究センター国際シンポジウム“Shin Buddhism, Christianity, Islam: Conversations in Comparative Theology,” Session 4 “Amida, Allah, Trinity,” Eisho Nasu, “Relativizing the Monotheistic Discourses of Creation: Two Buddhists’ Views,” 龍谷大学, 2017年2月。

④本願寺国際センターゼミナール(恵範講座), 那須英勝, 「キャンプ(強制収容所)に咲いた「ダルマ」の花: 田名大正師(1907~1972)と玉井好孝師(1900~1983)の戦時収容所での文書伝道に学ぶ」, 本願寺国際センター, 2017年2月。

⑤日本宗教学会第75回学術大会, 那須英勝, 「棲浄斎誓鑑師(一七五三-一八二九)「解魔弁」考」, 早稲田大学, 2016年9月。

⑥IBS-Ryukoku Lecture, Eisho Nasu, “Genshin’s Dialogical Hermeneutics to the Tendai Pure Land Buddhism and His Influence to the Formation of Shinran’s Thought,” Institute of Buddhist Studies, Berkeley, California, 2016.3.

⑦“Buddhism and Agriculture in Japan,” IBS-CBE Symposium, Eisho Nasu, “Shinran in the Farming Communities of the Eastern (Kanto) Region in Medieval Japan” Shinran in the Farming Communities of the Eastern (Kanto) Region in Medieval Japan,” Visalia, California, 2016.3.

桂 紹隆

①XVIIIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, Shoryu Katsura, “The Four Yoga Stages of the Prajñāpāramitopadeśa,” University of Toronto, 2017. 8.

②International Workshop on Bhāviveka and Buddhist Logic, Shoryu Katsura, “Bhāviveka’s Proof Formulae Estimated by Dignāga’s Logic,” Zhejiang University(浙江大学), 2017. 7.

③駒沢大学成道会記念講演会, 桂紹隆, 「龍樹の仏陀観-ブツダ(達)は何を説いたか」, 駒沢大学, 2016年12月。

④HUBA 第40回公開講演会, 桂紹隆, 「『教行信証』を読む-仏教学の視点から-」, 広島大学, 2016年11月。

⑤第6回北京国際チベット学会, 桂紹隆, “Recovering a Sanskrit Text of the Nyāyamukha of Dignāga,” 中国蔵学研究中心(China Tibetology Research Center), 北京, 2016年8月。

⑥Buddhist Studies Workshop Lecture, Shoryu Katsura, “Did the Buddha teach any *dharma* according to Nāgārjuna?” Princeton University, 2016. 4.

佐藤智水

①漢魏南北朝史研究会, 佐藤智水, 「北魏造像記にみえる“奉為皇帝”願文について」, 長野市戸隠, 2016年8月。

廣田デニス

①Shin Buddhism, Christianity, Islam: Conversations in Comparative Theology, Dennis Hirota, “The Shin Buddhist Conception of Truth,” Ryukoku University, 2017. 2.

②American Philosophical Association, Dennis Hirota, “The Temporality of Religious Existence in Shinran and Heidegger,” Baltimore, Maryland, 2017.1.

③International Association for Japanese Philosophy, Dennis Hirota, “Shin Buddhism in the Light of Continental Philosophy,” Kyushu University, 2016. 10.

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

- ④Universität Münster, Cluster of Excellence: Religion and Politics, Dennis Hirota, "The Buddhist Encounter with Modernity in Japan," Münster, Germany, 2016. 6.
- ⑤God or the Divine: Religious Transcendence beyond Monism and Theism, between Personality and Impersonality, Dennis Hirota, "The Locus of Transcendence in the Thought of Shinran," Schwerte, Germany, 2016. 6.
- ⑥Shinran and Continental Philosophy: Shinran, Heidegger, Levinas, Dennis Hirota, "Shinran and Heidegger on the Phenomenology of Religion," Institute of Buddhist Studies, Berkeley, California, 2016. 4.

金澤 豊

- ①Mahachulalongkornrajavidyalaya University (MCU) The 17th National Conference and the 1st International Conference "Ethics and Sustainable Development," Yutaka Kanazawa, "The Role and Significance of Interfaith Chaplain in Japan: Based on Shinran's Views of Death and Great Compassion", Mahachulalongkornrajavidyalaya University, 2018.1.
- ②第36回日本自然学会学術講演会, 金澤豊, 「陸前高田市における災害モニュメントと宗教者の役割」, 2017年9月。

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

【2017年度】

センター全体

①2017年度 第1回 国際シンポジウム

■テーマ:南都学・北嶺学の世界—法会と仏道—*3

■開催日時:2017年6月3日(土)~4日(日)

■場所:法相宗大本山薬師寺

■報告者・報告題目:

【1日目】

[第1部:法会と論義]

永村 眞(日本女子大学名誉教授)

「中世南都諸寺の法会 —講説・論義・打集を中心に—」

楠 淳證(龍谷大学教授)

「法相論義と仏道 —「一仏帰依」か「多仏帰依」か—」

<法会実演>

薬師寺衆僧 薬師寺伝灯の法会

[第2部:法会の空間]

ニールス・グェルベルク(早稲田大学教授)

「法会と講式 —南都・北嶺の講式を中心として—」

フレデリック・ジラル(フランス極東学院教授)

「法会と芸能 —鴨長明, 道元における月講式, 三界唯心, 月の和歌—」

藤井恵介(東京大学大学院教授)

「法会と仏堂」

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

〈討論会〉

コーディネーター:楠 淳澄

登壇者:永村 眞, ニールス・グェルベルク, フレデリック・ジラルール, 藤井恵介

【2日目】

[第3部:僧の生活と持律]

ポール・グローナー(ヴァージニア大学名誉教授)

「13・4世紀の天台円頓戒に関する論義 —実導仁空を中心に—」

蓑輪顕量(東京大学大学院教授)

「南都の戒律 —中世復興から現代を考える—」

玉木興慈(龍谷大学教授)

「親鸞と戒律 —無戒名字の比丘—」

[第4部:東日本大震災と仏教 —仏道の現代的意義—]

〈基調報告〉

大谷徹瑨(法相宗大本山薬師寺執事)

「今、仏教に何ができるか —被災地をめぐる—」

〈討論会〉

コーディネーター:若原雄昭(龍谷大学教授)

登壇者:

金澤 豊(龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)

「岩手県陸前高田市における浄土真宗本願寺派の対人支援について」

安部智海(浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手)

「宮城県名取市における浄土真宗本願寺派の対人支援について」

高見昌良(天台宗務庁社会部社会課課長)

「問われた我々の存在意義 —天台宗防災士の誕生—」

森本公穰(華嚴宗大本山東大寺執事)

「仏教徒として、今やるべきこととやっておくべきこと」

■参加者:191名(両日合計)

■共催:法相宗大本山薬師寺

②2017年度 第1回 研究総会

■開催日時:2017年8月2日(水)13:30~15:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■参加者:24人

③2017年度 第2回 研究総会

■開催日時:2018年3月14日(水)13:30~15:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■参加者:17人

グループ1(通時的研究班)・ユニットA:日本仏教の形成と展開

①2017年度 第1回 研究会

■報告題目:道宣の『四分律』理解

■開催日時:2017年11月27日(月)17:00~20:00

■場所:龍谷大学大宮学舎白亜館4階共同研究室4-1

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者:西山明範(一般財団法人律宗戒学院研究員)

■参加者:4人

②2017年度 第2回 研究会

■報告題目:因明蠡測 “日本における『因明入正理論』の古写本について—因明論義展開の起点—”

■開催日時:2018年1月18日(木)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室1・2

■報告者:後藤康夫(2017年度 BARC 公募研究員, 龍谷大学非常勤講師)

■司会・コメンテーター:楠 淳證(龍谷大学教授)

■参加者:23人

③2017年度 第3回 研究会*4*5

■テーマ:比叡山の植生について

■開催日時:2018年1月18日(木)15:15~17:15

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室1・2

■報告者・報告題目

土屋和三(BARC 研究員)

「山修山学の山の自然誌—比叡山の生態復元・創成のころみ—」

道元徹心(龍谷大学教授)

「近世比叡山における山修山学の理念—止観院蔵『比叡山再興縁起』等の史料より—」

■参加者:15人

④2017年度 第1回 国内シンポジウム*24

■テーマ:日本浄土教の特質と多様性

■開催日時:2017年10月9日(月)13:15~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■報告者・報告題目:

[基調講演]

平 雅行(京都学園大学教授, 大阪大学名誉教授)

「浄土教における顕密仏教と専修念仏—浄土教史の再構築をめざして—」

[パネル発表]

川添泰信(龍谷大学教授)

「法然と親鸞の師弟観」

中川 修(龍谷大学教授)

「専修念仏が提起する二・三の問題」

楠 淳證(龍谷大学教授)

「法相宗貞慶の浄土教思想の特色」

安達俊英(知恩院浄土宗学研究所研究員, 元佛教大学准教授)

「法然浄土教と本覚思想—歴史的意義と現代的意義—」

■パネルディスカッションコーディネーター:玉木興慈(龍谷大学教授)

■総合司会:高田文英(龍谷大学准教授)

■参加者:148人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

⑤2017年度 第1回 セミナー

- 報告題目:薬師寺声明の世界～花会式之美～
- 開催日時:2017年7月7日(金)13:15～14:45
- 場所:龍谷大学深草学舎顕真館
- 実演者:
村上太胤(法相宗大本山薬師寺管主)
加藤朝胤(法相宗大本山薬師寺執事長)
大谷徹熒(法相宗大本山薬師寺副執事長)
倍巖良明(融通念仏宗法徳寺住職)
安田熒基(法相宗大本山薬師寺執事)
加藤大覚(法相宗大本山薬師寺録事)
- 解説者:加藤朝胤(法相宗大本山薬師寺執事長)
- 参加者:215人
- 共催:龍谷大学宗教部

⑥2017年度 第1回 学術講演会

- 報告題目:日蓮の謗法観と阿闍世解釈—親鸞教学との接点を求めて—
- 開催日時:2017年7月24日(月)16:45～18:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西覺2階大会議室
- 報告者:原 慎定(立正大学教授)
- コメンテーター:杉岡孝紀(龍谷大学教授)
- 参加者:28人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑦2017年度 第2回 学術講演会

- 報告題目:中世における天台論義書の一系譜—『阿弥陀房抄』を中心に—
- 開催日時:2017年11月2日(木)16:45～18:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西覺2階大会議室
- 報告者:長谷川裕峰(叡山学院講師)
- コメンテーター:道元徹心(龍谷大学教授)
- 参加者:14人

⑧2017年度 第3回 学術講演会

- 報告題目:親鸞にとっての真実行
- 開催日時:2017年12月11日(月)17:00～18:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎西覺2階大会議室
- 報告者:一楽 真(大谷大学教授)
- コメンテーター:杉岡孝紀(龍谷大学教授)
- 参加者:45人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑨2017年度 第4回 学術講演会

- テーマ:天台・恵心僧都源信と仏教美術
- 開催日時:2017年12月16日(土)13:00～16:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■総合司会:西谷 功(BARC 研究員, 泉涌寺宝物館 学芸員)

■報告者・報告題目:

鯨井清隆(大津市歴史博物館 学芸員)

「天台三山と美術—比叡山延暦寺・園城寺(三井寺)・西教寺—」

北澤菜月(奈良国立博物館 情報サービス室 主任研究員)

「恵心僧都源信と浄土信仰の美術」

■参加者:35 人

⑩2017 年度 第 5 回 学術講演会

■報告題目:親鸞にとっての真実心

■開催日時:2018 年 1 月 22 日(月)16:45~18:15

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者:玉木興慈(龍谷大学教授)

■コメンテーター:高田文英(龍谷大学准教授)

■司会:杉岡孝紀(龍谷大学教授)

■参加者:21 人

⑪2017 年度 第 6 回 学術講演会

■テーマ:天台の思想と造形, 文化, 儀礼

■開催日時:2018 年 3 月 10 日(土)13:00~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館 3 階ホール

■報告者・報告題目:

西谷功(BARC 研究員, 泉涌寺学芸員)

「知られざる宋代天台の儀礼と文化」

久保智康(叡山学院教授, 京都国立博物館名誉館員)

「天台の教説と造形美術」

■司会:大谷由香(龍谷大学特任講師)

■参加者:35 人

⑫2017 年度 文化講演会

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の法会(第 1 回)

■報告題目:奈良時代から続く不退の行法—東大寺修二会の世界—

■開催日時:2017 年 11 月 19 日(日)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■報告者:狭川普文(華嚴宗大本山東大寺別当)

■参加者:55 人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑬2017 年度 文化講演会

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の法会(第 2 回)

■報告題目:南都の伝灯法会—仏に成る道—

■開催日時:2017 年 12 月 2 日(土)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■報告者:楠 淳證(龍谷大学教授)

■参加者:37 人

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑭2017年度 文化講演会

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の法会(第3回)

■報告題目:薬師寺の伝灯法会—花会式の世界—

■開催日時:2018年1月20日(土)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■報告者:村上太胤(法相宗大本山薬師寺管主)

■参加者:93人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

グループ1(通時的研究班)・ユニットB:近代日本仏教と国際社会

①2017年度 第1回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第6回)

■開催日時:2017年7月24日(月)16:30~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者:6人

②2017年度 第2回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第7回)

■開催日時:2017年10月6日(金)16:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者:6人

③2017年度 第3回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第8回)

■開催日時:2017年12月1日(金)16:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■参加者:6人

④2017年度 第4回 研究会

■テーマ:明治仏教の国際化に関する共同研究への展望

■開催日時:2017年12月8日(金)15:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

Stephan Licha(ハイデルベルク大学日本学術研究所)

「Mahāyāna in Europe: Japanese Buddhists and Their Contribution to Academic Knowledge on Buddhism in Nineteenth-Century Europe」

嵩 宣也(龍谷大学大学院)

「明治仏教における翻訳語の研究—特に真宗の英訳仏書を中心に—」

■参加者 :10人

⑤2017年度 二国間交流事業シンポジウム

■テーマ:日印交流における仏教

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■開催日時: 12月23日(土)11:00-18:45

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

[公開講演会]

小島裕子(Kojima, Yasuko, 国際仏教学大学院大学)

「大仏を開眼した菩提僊那(ボーディ・セーナ)—日本文化の中に構築された「インド」—
 (“Bodhi Sena, the Priest to Consecrate the Great Buddha: Imagined ‘India’ in the History of Japanese Culture”)

[研究報告]

Minowa, Kenryo(蓑輪顕量, 東京大学)

“Longing for India: Japanese Buddhist and India”

Dake, Mitsuya(嵩満也, 龍谷大学)

“Japanese Buddhists Views of India Seen in the Magazine Bukkyokaigaijijo (1888-1893)”

Okuyama, Naoji(奥山直司, 高野山大学)

“Japanese Buddhists in Recovery Movement of the Bodh Gaya Temple After 1891: The role of Shaku Kōzen and the Shingon Sect”

Tomas Newhall(トマス・ニューホール, 東京大学)

“From “bongaku” 梵学 to “indo tetsugaku” 印度哲学: The Development of Indology at Japanese Universities”

Nohnin, Masaaki(能仁正顕, 龍谷大学)

“Otani Kozui and India: Seeking the Origin of the Eastward Spread of Buddhism”

Ranjana Mukhopadhyaya(ランジャナ・ムコパディヤーヤ, デリー大学)

“Proselytizing in the “Western Paradise”: India in the making of Fujii Nichidatsu and Nipponzan Myohoji”

Okamoto Yoshiko(岡本佳子, 国際基督教大学アジア文化研究所)

“A Dream of an Asian Religious Conference: Japan-India Cultural Interaction behind the Journey of Okakura Kakuzo, Oda Tokuno and Hori Shitoku to India”

Bessho, Yusuke(別所裕介, 駒澤大学)

“Buddhist Heritages Development Assistance as Present-day India-Japan Friendship: By Comparison to JICA, APECF and FPMT”

Sato Ryojyun(佐藤良純, 大正大学)

“Indian Deities of Buddhism and Hinduism in Japan”

Funahashi, Kenta(舟橋健太, 龍谷大学)

“Development of Buddhist Conversion Movements in Contemporary India: The View from Local and Global”

Togawa, Masahiko(外川昌彦, 東京外国語大学)

“Living with Gandhi: Fujii Gurji and India-Japan Relations in the 1930s”

■参加者: 30人

■共催:

東京外国語大学 AA 研・日本学術振興会二国間交流事業(JSPS-ICHR), 龍谷大学・南アジア研究センター(RINDAS)／世界仏教文化研究センター(RCWBC), 東京外大 AA 研・基幹人類学班, Samutthan Foundation, New Delhi

©2017年度 第1回 セミナー

■テーマ: 日本仏教アジア布教の諸問題

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■開催日時:2017年7月31日(月)12:50~17:40

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

中西直樹(龍谷大学教授)

「日本仏教によるアジア布教史概観」

大澤広嗣(文化庁文化部宗務課専門職)

「財団法人朝鮮仏教団の留学生派遣と宗教民族学者の金孝敬」

野世英水(龍谷大学非常勤講師)

「真宗本願寺派関東別院の活動と終焉」

中西直樹

「戦前期日本仏教のシンガポール布教—昭和初期までの本願寺派の動向を中心に—」

■ファシリテーター:林 行夫(龍谷大学教授)

■参加者:27人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所, 龍谷学会

⑦2017年度 第2回 セミナー

■報告題目:近代仏教の時代のすれちがい—戦前, 戦中の日本で刊行された仏教雑誌, 書籍にみるカンボジア関連記事—

■開催日時:2017年11月17日(金)13:30~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者:笹川秀夫(立命館アジア太平洋大学教授)

■ファシリテーター:林 行夫(龍谷大学教授)

■コメンテーター:中西直樹(龍谷大学教授)

■参加者:10人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑧2017年度 第3回 セミナー

■開催日時:2018年2月24日(金)

■場所:大宮学舎西翼3階小会議室

■報告者・報告題目

安藤徳明(2017年度 BARC 公募研究員, 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所プログラム研究員)

「タイの仏教寺院における社会福祉機能の実態研究」

神田英昭(高野山真言宗僧侶)

「タイと日本の仏教は対話できるか?」

■コメンテーター:村上忠良(大阪大学大学院教授)

■参加者:16人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑨2017年度 第1回 学術講演会

■テーマ:大谷光瑞研究をめぐる諸問題~旅順博物館開設100周年にあたって~

■開催日時:2017年6月30日(金)14:45~18:30

■場所:龍谷大学大宮学舎本館講堂

■報告者・報告題目:

王 振芬(旅順博物館館長)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

「旅順博物館所蔵の仏教文物」

※通訳: 徐 光輝(龍谷大学教授)

掬月誓成(別府大谷記念館副館長)

「大谷光瑞師の都市計画について」

■ファシリテーター: 三谷真澄(龍谷大学教授)

■参加者: 102 人

⑩2017 年度 第 2 回 学術講演会

■報告題目: Mid-century Buddhist Engagements in America: The Berkeley Temple Newsletter 1939-1953

■開催日時: 2017 年 7 月 3 日(月)17:30~19:00

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者: Scott Mitchell(米国仏教大学院教授)

■ファシリテーター: 嵩 満也(龍谷大学教授)

■コメンテーター: 釋氏真澄(龍谷大学大学院研究生)

■参加者: 14 人

■共催: 龍谷大学仏教文化研究所

⑪2017 年度 第 3 回 学術講演会

■報告題目: 明治印度留学生

■開催日時: 2017 年 12 月 8 日(金)13:00~14:30

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者: 奥山直司(高野山大学教授)

■参加者: 15 人

⑫2017 年度 第 4 回 学術講演会

■報告題目: 大谷光瑞師と台湾・逍遙園~その建築空間と修復事業を中心として~

■開催日時: 2018 年 1 月 19 日(金)11:00~12:30

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者: 黄 朝煌(新潟大学現代社会文化研究科・客員研究員, 前国立高雄大学・研究員)

■参加者: 18 人

グループ 2(共時的研究班)・ユニット A: 現代日本仏教の社会性・公益性

①2017 年度 第 1 回 研究会

■テーマ: 現代インドにおける仏教運動の諸相②

■開催日時: 2017 年 5 月 28 日(日)13:30~17:30

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者・報告題目:

嵩 満也(龍谷大学)

「ナーグプルにおける仏教グループの諸相」

壬生泰紀(龍谷大学)

「カルナータカ州およびテランガーナ州の仏教運動の現状—ボーディ・ダンマ師の活動を通して—」

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

佐藤智水(龍谷大学)

「カルナータカ州ビジャプールの仏教徒たちとリーダー」

舟橋健太(龍谷大学)

「カルナータカ州における仏教運動の展開」

■参加者:25人

■共催:龍谷大学南アジア研究センター(RINDAS)

②2017年度 第2回 研究会(公募研究報告会)*17

■開催日時:2018年1月25日(木)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

スタン・シャキヤ(2017年度 BARC 公募研究員, 種智院大学准教授)

「現代のネパールにおける仏教教団の構成と社会的役割」

井上綾瀬(2017年度 BARC 公募研究員, 龍谷大学仏教文化研究所客員研究員)

「律文献にみられる薬について—塩を一例として—」

■司会:那須英勝(龍谷大学教授)

■参加者:10人

③2017年度 第1回 国内シンポジウム*16

■テーマ:仏教×社会福祉問題=∞

■開催日時:2017年10月31日(火)13:00~16:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■報告者・報告題目:

清水道子(保護司, 浄土真宗本願寺派真光寺坊守)

「保護司活動を通して」

松島靖朗(特定非営利活動法人おてらおやつクラブ代表理事)

「「お寺の社会福祉活動」を支えるもの~おてらおやつクラブの現場から~」

石川到覚(大正大学名誉教授)

「仏教のボランティアとソーシャルワーク」

■ファシリテーター:長上深雪(龍谷大学教授)

■参加者:35人

■共催:龍谷学会

■協力:日本仏教社会福祉学会, 特定非営利活動法人 JIPPO, 特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

④2017年度 第1回 国際シンポジウム*30

■テーマ:仏教と自死に関する国際シンポジウム

■開催日時:2017年11月9日(木)~10日(金)

■場所:9日=浄土真宗本願寺派伝道院/10日=龍谷大学響都ホール校友会館

■報告者・報告題目:

【9日】(※関係者のみ)

[第1部:自死・自殺をめぐる課題の共有にむけて]

村澤孝子(京都府精神保健福祉総合センター)

「関西における自死の現状と課題」

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

野呂 靖(龍谷大学)

「日本における〈自死〉・〈自殺〉用語の用例と自殺観の変遷」

NPO 法人京都自死・自殺相談センター

「研修方法の紹介—相談団体の事例より—」

[第2部:日本における宗教者の自死に関する活動—その現状と課題—]

関本和弘(融通念仏宗, 自死に向き合う関西僧侶の会, NPO 法人大阪自殺防止センター)

リメンバー名古屋自死遺族の会

竹本了悟(浄土真宗本願寺派総合研究所, NPO 法人京都自死・自殺相談センター)

[第3部:海外における宗教者の自死に関する活動]

釋慧開(佛光山, 南華大學學術副校長, 佛光大學佛教學院院長)

ボーダナンダ(ミトル・ミツロ運動, 青少年リハビリセンター創立者)

ジンジ・ウリングハム(ウパーヤ禅センター, 病院チャップレン, 精神医療医)

【10日】(※一般公開)

[基調講演]

佐々木閑(花園大学教授)

「仏教は自死・自殺にどう向き合うか」

[提言]

小川有閑(大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター)

野呂 靖(龍谷大学)

イレヌ・ユーエン(米国ナローパ佛教大学)

※コーディネーター:岡野正純(孝道教団)

[声明文の発表]

ジョナサン・ワッツ(孝道教団・国際仏教交流センター)

竹本了悟(浄土真宗本願寺派総合研究所, NPO 法人京都自死・自殺相談センター)

■参加者:57人(9日), 128人(10日)

■共催:浄土真宗本願寺派総合研究所, 孝道教団・国際仏教交流センター(IBECA), 曹洞宗総合研究センター, 大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター, 教団附置研究所懇話会自死部会, 自死に向き合う関西僧侶の会, NPO 法人京都自死・自殺相談センター

⑤2017年度 第1回 ワークショップ

■報告題目:医療と福祉におけるエンゲージドブディズム

■開催日時:2017年8月3日(木)16:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎 清風館 B103 教室

■報告者:木下克俊(臨床宗教師)

■コメンテーター:長上深雪(龍谷大学教授)

■参加者:24人

■共催:日本仏教社会福祉学会

⑥2017年度 第1回 国際セミナー*19

■報告題目:Compassion in Action: Change towards Better Life

■開催日時:2017年4月25日(火)17:00~19:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者:The Venerable Ananda (Maha Bodhi Society, Bengaluru, INDIA)

■参加者:20人

■共催:龍谷大学南アジア研究センター(RINDAS)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

グループ2(共時的研究班)・ユニットB: 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

①2017年度 第1回 国際シンポジウム*32

■テーマ: 悪と自己意識(Evil and Self-Awareness)

■開催日時: 2017年7月12日(水)~14日(金)

■場所: ミュンスター大学

■報告者・報告題目:

【2017年7月12(水): Public Lectures】

Prof. Imtiyaz Yusuf (Mahidol University, Bangkok):

“Buddhism, Islam and Politics in South- and Southeast Asia”

Prof. Mouhanad Khorchide (Muenster University):

“Islam and Inter-Faith Relations”

【2017年7月13(木): Research Meetings】

[Session (1): Karmic Evil (悪業 akugō), Sin, Suffering, and Predestination]

A Shin-Buddhist Perspective: Eisho Nasu

A Muslim Perspective: Imtiyaz Yusuf

A Christian Perspective: James Fredericks

Responses by Nasu, Yusuf, Fredericks

Replies to Responses

General discussion

[Session (2): Practice (行 gyō), Prayer, and Transformation]

A Shin-Buddhist Perspective: Dennis Hirota

A Muslim Perspective: Maria Dakake (via Skype)

A Christian Perspective: Perry Schmidt-Leukel

Responses by Hirota, Dakake, Schmidt-Leukel; Replies

General discussion

【2017年7月14日(金): Research Meetings】

[Session (3): Repentance and Forgiveness, Aspiration and Hope]

A Shin-Buddhist Perspective: David Matsumoto

A Muslim Perspective: Mouhanad Khorchide

A Christian Perspective: Peter Phan

Responses by Matsumoto, Khorchide, Phan; Replies

General discussion

[Session (4): The Nature of Human Existence]

A Shin-Buddhist Perspective: Mitsuya Dake

A Muslim Perspective: Junya Shinohe

A Christian Perspective: Bernhard Nitsche

Responses by Dake, Shinohe, Nitsche; Replies

General discussion

Reflection on the conference, opened up by a statement by Leo Lefebure

■参加者: 70人(12日), 40人(13日), 35人(14日)

■共催: ミュンスター大学, ジョージタウン大学

②2017年度 第1回 国際ワークショップ*23

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■テーマ:越境する日本の女性仏教徒

■開催日時:2017年7月17日(月)14:00~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■趣旨説明:本多 彩(兵庫大学准教授)

■報告者・報告題目:

ヴィクトリア・吉村(浄土真宗本願寺派玄武山正念寺坊守)

“Female, Foreign and in the Firing Line: The Adventures of a British female Buddhist Priest in Rural Japan”

パトリシア・宇宿(サンファナンドバレー本願寺仏教会開教使)

“Transcending Dichotomy: a Perspective from America”

※通訳:川本佳苗(龍谷大学大学院)

■ファシリテーター:那須英勝(龍谷大学教授)

■コメンテーター:川橋範子(名古屋工業大学教授)

■参加者:40人

③2017年度 第1回 国際セミナー

■テーマ:近代仏教婦人会の諸相

■開催日時:2017年7月14日(金)13:30~17:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

中西直樹(龍谷大学教授)

「近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義」

岩田真美(龍谷大学准教授)

「小野島行勲の関東開教と上毛婦人教育会」

近藤俊太郎(龍谷大学非常勤講師)

「近代大阪における真宗の女子教育—相愛女学校創立をめぐる」

■参加者:21人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所, 龍谷学会

④2017年度 第1回 学術講演会

■テーマ:レイモン・パニカーと宗教間の対話—クリスチャン・ヒンドゥー・ブディストの立場から—

■開催日時:2017年4月26日(水)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎北翼2階204

■報告者:ユサ・ミチコ(西ワシントン大学 現代・古典語学科)

■ファシリテーター:那須英勝(龍谷大学教授)

■参加者:88人

■共催:仏教文化研究所, 世界仏教文化研究センター

⑤2017年度 第2回 学術講演会

■テーマ:現代ミャンマーにおける女性出家者の生活と役割(Buddhist Nuns' Lives and Roles in Modern Myanmar)

■開催日時:2018年1月26日(金)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階第会議室

■報告者:Thisar Nandi (ティサ・ナンディ) 師(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

科(ASAFAS))

■ファシリテーター: 那須英勝(龍谷大学文学部教授), 川本佳苗(龍谷大学大学院研究生)

■参加者: 16人

■共催: 仏教文化研究所, 世界仏教文化研究センター

2017年度『研究報告書』をHPで公開中(「研究進捗状況」, 「ワーキングペーパー」を収録)。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/news/2018/05/2017up.html>

2017年度第1号『ニューズレター』(通巻第4号)をHPで公開中。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/newsletter/upfile/f180c060fd2d04946e1d3e8b9783c4c8e00e2a39.pdf>

2017年度第2号『ニューズレター』(通巻第5号)をHPで公開中。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/newsletter/upfile/35520f5285ea689b0472e58a55bd811542a9e091.pdf>

【2016年度】

センター全体

①2016年度 第1回 研究総会

■開催日時: 2016年7月29日(金)13:15~16:00

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■参加者: 25人

②2016年度 第1回 国際シンポジウム

■テーマ: Shin Buddhism, Christianity, and Islam: Conversations in Comparative Theology (浄土真宗・キリスト教・イスラームにおける比較神学的対話)

■開催日時: 2017年2月15日(水)~17日(金)

■場所: 龍谷大学大宮学舎清風館地下1階B102

■報告者・報告題目:

【1日目: 公開講演会】テーマ「宗教多様性をどう理解するか?—ギフォードレクチャーを終えて—」

ペリー・シュミット・ルンケル(ミュンスター大学教授, 2015年度ギフォードレクチャー講演者)

「宗教多様性のフラクタル的解釈」

小布施祈恵子(神戸市立外国語大学研究員)

「仏教徒とムスリムの相互認識—日本仏教からの視座を中心に—」

通訳: 那須英勝(龍谷大学文学部教授)

【2日目: Workshop】

First Session: Buddha's Teaching, Revelation, Logos

Dennis Hirota (Ryukoku University)

Imtiyaz Yusuf (Mahidol University)

Perry Schmidt-Leukel (Münster University)

Second Session: Universality and Exclusivism

Mitsuya Dake (Ryukoku University)

Junya Shinohe (Doshisha University)

Peter Phan (Georgetown University)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

【3日目:Workshop】

Third Session: Myth and History

David Matsumoto (Institute of Buddhist Studies)

Maria Dakake (George Mason University)

James L. Fredericks (Loyola Marymount University)

Fourth Session: Amida, Allah, Trinity

Eisho Nasu (Ryukoku University)

Elif Emirahmetoglu (Münster University)

Bernhard Nitsche (Münster University)

■参加者:90人

■共催:Münster University, Georgetown University

③2016年度 第2回 研究総会

■開催日時:2017年3月14日(火)15:00~17:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302

■参加者:21人

グループ1(通時的研究班)・ユニットA:日本仏教の形成と展開**①2016年度 第1回 研究会**

■報告題目:論義と仏道—法相・華嚴・天台—

■開催日時:2016年4月13日(水)16:30~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎楠研究室

■報告者:

楠 淳證(龍谷大学アジア仏教文化研究センター長, 文学部教授)

藤丸 要(龍谷大学文学部教授)

道元徹心(龍谷大学理工学部教授)

■参加者:3人

②2016年度 第2回 研究会

■開催日時:2017年1月19日(木)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎北鬘203教室

■報告者・報告題目:

小南沙月(2016年度BARC公募研究員)

「慈覚大師円仁将来目録の研究—『入唐求法巡礼行記』との関連を中心に—」

楠 淳證(BARCセンター長, 龍谷大学文学部教授)

「法相論義「一仏繫属」展開の意義—貞慶による法然浄土教批判の構築—」(※下記「⑦2016年度第3回セミナー」において報告を予定していたが, 諸事情により変更した。)

■司会:楠 淳證(龍谷大学アジア仏教文化研究センター長, 文学部教授)

■コメンテーター:道元徹心(龍谷大学理工学部教授)

■参加者:26人

③2016年度 第3回 研究会

■報告題目:唐招提寺照遠の事跡と著作

■開催日時:2017年3月8日(水)9:00~12:00

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■場所:龍谷大学大宮学舎白亜館4階(共同研究室4-1)

■報告者:西山明範(一般財団法人律宗戒学院研究員)

■参加者:4人

④2016年度 第1回 国内シンポジウム

■テーマ:南都学・北嶺学の構築に向けて—論義と儀礼—*2

■開催日時:2016年6月3日(金)13:15~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■基調講演:

上島 享(京都大学大学院文学研究科・文学部教授)

「古代・中世における論義法会の歴史変遷とその意義—朝廷と南都・北嶺の論義法会—」

■報告者・報告題目:

藤平寛田(天台宗典編纂所編集長, 叡山学院講師)

「天台の論義」

蜷川祥美(岐阜聖徳学園大学短期大学部教授)

「法相の論義」

■参加者:189人

⑤2016年度 第1回 セミナー

■報告題目:薬師寺の法会—花会式と慈恩会を中心として—

■開催日時:2016年10月13日(木)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎北麓203教室

■報告者:加藤大覚(薬師寺録事)

■参加者:16人

⑥2016年度 第2回 セミナー

■テーマ:比叡の森を護る

■開催日時:2017年1月13日(金)13:15~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎北麓204教室

■報告者・報告題目:

磯村良定(BARC研究協力者, 延暦寺一山無量院住職, 延暦寺総務部主事)

「比叡山—伝教大師の衣の森—」

武 円超(BARC研究協力者, 延暦寺管理部主事)

「大師の森を守る—比叡山の森林施業—」

■コメンテーター:楠 淳證(龍谷大学アジア仏教文化研究センター長, 文学部教授)

■参加者:137人

⑦2016年度 第3回 セミナー

■テーマ:論義と仏道—法相・華嚴・天台—

■開催日時:2017年1月17日(火)15:00~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■報告者・報告題目:

藤丸 要(龍谷大学教授)

「華嚴論義の成立と展開」

道元徹心(龍谷大学教授)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

「天台論義資料への一視点—千観撰『法華三宗相對抄』・東大寺図書館蔵『天台宗一乗義秘要抄』を手掛かりに—」

■総合司会:大谷由香(BARC 研究員, 龍谷大学非常勤講師)

■参加者:44 人

⑧2016 年度 第 1 回 学術講演会

■テーマ:天台学の世界

■開催日時:2016 年 5 月 17 日(火)15:00~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館 3 階ホール

■報告者・報告題目:

武 覚超(叡山学院教授)

「慈恵大師良源から恵心僧都源信への影響」

■司会:道元徹心(龍谷大学理工学部教授)

■参加者:69 人

⑨2016 年度 第 2 回 学術講演会

■報告題目:中世びとの信仰の形態

■開催日時:2016 年 5 月 30 日(月)17:30~19:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館地下 1 階 B101

■報告者:大喜直彦(本願寺史料研究所上席研究員)

■コメンテーター:杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)

■参加者:36 人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑩2016 年度 第 3 回 学術講演会 * 6

■報告題目:本学所蔵古地図のデジタル修復(混一疆理歴代国都之図の保存のためのデジタル修復・複製)

■開催日時:2016 年 6 月 22 日(水)16:30~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者:岡田至弘(龍谷大学理工学部情報メディア学科教授)

■司会:渡邊 久(龍谷大学文学部教授)

■コメンテーター:村岡 倫(龍谷大学文学部教授)

■参加者:31 人

⑪2016 年度 第 4 回 学術講演会

■テーマ:明恵と高山寺

■開催日時:2016 年 6 月 25 日(土)13:15~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階 253 教室

■総合司会:西谷 功(BARC 研究員, 泉涌寺宝物館学芸員)

■報告者・報告題目:

野呂 靖(龍谷大学文学部講師)

「明恵と高山寺の教学—宋版『華嚴五教章』の受容をめぐる—」

森實久美子(九州国立博物館企画課研究員)

「明恵の釈迦信仰」

伊藤久美(奈良国立博物館学芸部美術室研究員)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

「明恵をめぐる絵巻製作—「華嚴宗祖師絵伝」を中心に—」

■参加者:76人

⑫2016年度 第5回 学術講演会

■報告題目:親鸞と東国の人々

■開催日時:2016年7月18日(月)15:00~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■総合司会:杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)

■報告者:今井雅晴(筑波大学名誉教授)

■コメンテーター:川添泰信(龍谷大学文学部教授)

■参加者:45人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑬2016年度 第6回 学術講演会*7

■報告題目:歴史教育の場における『混一疆理歴代国都之図』の役割

■開催日時:2016年7月29日(金)17:00~18:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者:中村和之(函館工業高等専門学校教授)

■司会:渡邊 久(龍谷大学文学部教授)

■コメンテーター:村岡 倫(龍谷大学文学部教授)

■参加者:25人

⑭2016年度 第7回 学術講演会

■テーマ:玄奘三蔵と法相宗の美術—弥勒信仰と美術—

■開催日時:2016年10月29日(土)13:00~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■総合司会:西谷 功(BARC 研究員, 泉涌寺宝物館学芸員)

■報告者・報告題目:

打本和音(龍谷大学アジア仏教文化研究センターRA)

「弥勒経典と初期弥勒信仰の美術—ガンダーラから中国北魏へ—」

泉 武夫(東北大学大学院文学研究科教授)

「中国・日本の弥勒信仰とその美術」

北澤菜月(奈良国立博物館学芸部研究員)

「日本における兜率天曼荼羅—南都周辺の作例を中心に—」

■参加者:53人

■共催:科学研究費助成事業 基礎研究(B)課題番号 26284026「中央アジア仏教美術の研究—釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に—」(代表:宮治 昭)

⑮2016年度 第8回 学術講演会

■報告題目:中国仏教に宗派は本当に存在したのか

■開催日時:2016年11月1日(火)15:00~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール

■報告者:張 文良(中国人民大学教授)

■コメンテーター:長谷川岳史(龍谷大学経営学部教授)

■参加者:33人

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

⑩2016年度 文化講演会

- 報告題目:なぜ親鸞思想は超国家主義へと接続したのか
- 開催日時:2016年11月28日(月)13:15~14:45
- 場所:龍谷大学深草学舎顕真館
- 報告者:中島岳志(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)
- 司会:杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)
- 参加者:98人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑪2016年度 第9回 学術講演会*1

- 報告題目:高田本『教行証文類』の書誌学
- 開催日時:2016年12月5日(月)15:00~16:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室
- 報告者:清水谷正尊(高田派鑑学, 高田短期大学非常勤講師)
- コメンテーター:杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)
- 参加者:24人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑫2016年度 第10回 学術講演会*7

- 報告題目:『混一疆理歴代国都之図』研究から見た仏教系世界図検討の課題
- 開催日時:2017年1月26日(木)16:45~18:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室
- 報告者:濱下武志(東洋文庫研究員)
- 司会:渡邊 久(龍谷大学文学部教授)
- コメンテーター:村岡 倫(龍谷大学文学部教授)
- 参加者:15人

⑬2016年度 第11回 学術講演会

- 報告題目:親鸞と『往生要集』
- 開催日時:2017年1月27日(金)16:45~18:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室
- 報告者:高田文英(龍谷大学文学部准教授)
- 司会:杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)
- コメンテーター:玉木興慈(龍谷大学短期大学部教授)
- 参加者:18人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

⑭2016年度 第12回 学術講演会

- テーマ:玄奘三蔵の説話と美術
- 開催日時:2017年3月4日(土)13:00~17:00
- 場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階ホール
- 総合司会:
- 野呂 靖(龍谷大学文学部講師)
- 西谷 功(BARC研究員, 泉涌寺宝物館学芸員)

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者・報告題目:

師 茂樹(花園大学文学部教授)

「ナラティブとしての玄奘伝:日本古写経にみる玄奘伝の変遷」

谷口耕生(奈良国立博物館教育室長)

「中世日本における玄奘三蔵像の受容と展開」

大島幸代(香雪美術館学芸員)

「玄奘三蔵と護法神」

■参加者:95人

グループ1(通時的研究班)・ユニットB:近代日本仏教と国際社会

①2016年度 第1回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第1回)

■開催日時:2016年5月26日(木)16:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301

■参加者:6人

②2016年度 第2回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第2回)

■開催日時:2016年6月23日(木)16:45~18:15

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301

■参加者:9人

③2016年度 第3回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第3回)

■開催日時:2016年7月25日(月)16:00~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎南翼102

■参加者:12人

④2016年度 第4回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第4回)

■開催日時:2016年9月26日(月)17:00~19:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼小会議室

■参加者:13人

⑤2016年度 第5回 研究会*8

■報告題目:『THE BIJOU OF ASIA(亜細亜之宝珠)』研究会(第5回)

■開催日時:2016年11月7日(月)17:00~19:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼小会議室

■参加者:7人

⑥2016年度 第6回 研究会

■報告題目:戦時下における日本仏教の国際化—アメリカ強制収容所での真宗伝道—

■開催日時:2016年12月8日(木)17:00~18:30

■場所:龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者: 釋氏真澄(2016年度 BARC 公募研究員)

■参加者: 8人

⑦2016年度 第7回 研究会*12

■テーマ: 大谷光瑞師の事業の再検討

■開催日時: 2017年2月24日(金)13:00~16:00

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

高本康子(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員)

「大谷探検隊研究の現在」

市川良文(龍谷大学文学部准教授)

「大谷探検隊にかかわる資料紹介」

■司会: 三谷真澄(龍谷大学国際学部教授)

■参加者: 13人

⑧2016年度 第1回 ワークショップ

■報告題目: 真宗布教近代化の一断面—本願寺派「特殊布教」の成立過程を中心に—

■開催日時: 2016年8月2日(火)17:00~18:30

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者: 中西直樹(龍谷大学文学部教授)

■コメンテーター: 嵩 満也(龍谷大学国際学部教授)

■参加者: 35人

■共催: 龍谷大学仏教文化研究所

⑨2016年度 第2回 ワークショップ

■報告題目: 近現代の宗教界と公益法人制度—仏教婦人会の法人化を中心に—

■開催日時: 2016年11月4日(金)16:00~18:00

■場所: 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者: 大澤広嗣(文化庁文化部宗務課専門職)

■参加者: 19人

■共催: 龍谷大学仏教文化研究所

⑩2016年度 第3回 ワークショップ

■報告題目: 鈴木大拙夫妻を解読する—研究の現状に関するラウンドテーブル—

■開催日時: 2016年12月7日(水)15:00~18:30

■場所: 龍谷大学大宮学舎清和館3階会議室

■報告者:

ジェイムズ・ドビンズ(オーバリン大学)

リチャード・M・ジャフィ(デューク大学)

ジュディス・スノドグラス(西シドニー大学)

ウェイン・ヨコヤマ(花園大学)

■司会:

吉永進一(舞鶴工業高等専門学校)

アリス・フリーマン(オックスフォード大学)

■参加者: 22人

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

⑪2016年度 第4回 ワークショップ

- 報告題目: 中西牛郎と其の時代—明治中葉までを中心に—
- 開催日時: 2017年1月24日(火)15:00~18:00
- 場所: 龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302
- 報告者: 星野靖二(國學院大學研究開発推進機構准教授)
- 参加者: 16人

⑫2016年度 文化講演会*29

- テーマ: 世界認識と「アジア」(第1回)
- 講題: 『混一疆理歴代国都之図』から見た「世界」
- 開催日時: 2016年11月19日(土)13:30~15:00
- 場所: 龍谷大学深草学舎和顔館地下1階B201
- 講師: 村岡 倫(龍谷大学文学部教授)
- 参加者: 21人

⑬2016年度 文化講演会*29

- テーマ: 世界認識と「アジア」(第2回)
- 講題: 南方熊楠と「アジア」
- 開催日時: 2016年12月17日(土)13:30~15:00
- 場所: 龍谷大学深草学舎和顔館地下1階B201
- 講師: 松居竜五(龍谷大学国際学部教授)
- 参加者: 142人

⑭2016年度 文化講演会*29

- テーマ: 世界認識と「アジア」(第3回)
- 講題: 大谷光瑞の世界認識
- 開催日時: 2017年1月21日(土)13:30~15:00
- 場所: 龍谷大学深草学舎和顔館地下1階B201
- 講師: 三谷真澄(龍谷大学国際学部教授)
- 参加者: 173人

グループ2(共時的研究班)・ユニットA: 現代日本仏教の社会性・公益性

①2016年度 第1回 研究会*18

- 報告題目: 韓国・比丘尼の社会活動—聞き取り調査より—
- 開催日時: 2016年7月8日(金)16:00~17:30
- 場所: 龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302
- 報告者: 藤 能成(龍谷大学文学部教授)
- 参加者: 5人

②2016年度 第2回 研究会

- 報告題目: 宗教施設の訪問者に関する一考察
- 開催日時: 2016年11月18日(金)13:15~14:15
- 場所: 龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者:南條了瑛(2016年度 BARC 公募研究員)

■参加者:7人

③2016年度 第3回 研究会

■テーマ:現代インドにおける仏教運動の諸相

■開催日時:2017年3月21日(火)11:00~15:00

■場所:龍谷大学大宮学舎南翼102教室

■報告者・報告題目:

榎木美樹(名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授)

「テランガーナ州における次世代育成を目指す仏教施設の役割」

嵩 満也(龍谷大学国際学部教授)

「Triratna Buddhist Community の組織と活動」(※諸事情により報告延期。)

中村尚司(特定非営利活動法人 JIPPO 専務理事)

「エンゲージド仏教の国際集会に参加して:INEB の活動概要と将来展望」

■参加者:10人

■共催:龍谷大学南アジア研究センター(RINDAS)

④2016年度 第1回 ワークショップ*15

■報告題目:過疎地域における寺院の役割—宗勢基本調査結果が示すこと—

■開催日時:2016年10月4日(火)10:45~12:15

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館地下1階B103

■報告者:西光義秀(第10回宗勢基本調査実施センター調査研究員,奈良県宇陀市万行寺住職)

■コメンテーター:長上深雪(龍谷大学社会学部教授)

■参加者:18人

⑤2016年度 第2回 ワークショップ*14

■テーマ:仏教者による社会貢献活動の実態と意義—国内外における人道支援を通して—

■開催日時:2016年12月16日(金)13:00~16:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■総合司会:野呂 靖(龍谷大学文学部講師)

■報告者・報告題目:

定光大燈(Dāna International Center 事務局,浄土真宗本願寺派西楽寺前住職)

「ネパール在住のチベット難民の現状とその問題—DIC の支援活動を通して見えてきたこと—」

雨森慶為(真宗大谷派解放運動推進本部本部委員)

「野宿生活者との交流」

■コメンテーター:中村尚司(特定非営利活動法人 JIPPO 専務理事)

■参加者:32人

■協力:特定非営利活動法人 JIPPO, Dāna International Center, 真宗大谷派解放運動推進本部

⑥2016年度 第3回 ワークショップ

■報告題目:障害福祉サービス事業所「わごころ」の取り組み～宗教法人としていかに社会福祉にかかわるか～

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

- 開催日時:2017年1月10日(火)10:45~12:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302
- 報告者:芝 賢良(宗教法人浄念寺障害福祉サービス事業所わごころ代表役員・施設長)
- コメンテーター:長上深雪(龍谷大学社会学部教授)
- 参加者:12人

⑦2016年度 第4回 ワークショップ*13

- テーマ:仏教者による対人支援の現在
- 開催日時:2017年2月27日(月)15:00~16:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302
- 報告者:
福井智行(自死に向きあう関西僧侶の会代表)
猪 智喜(高野山真言宗心の相談員)
- 司会:野呂 靖(龍谷大学文学部講師)
- コメンテーター:竹本了悟(BARC 研究員, 浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)
- 参加者:9人

⑧2016年度 第1回 学術講演会

- 報告題目:現代仏教の可能性—響き合いに生きる—
- 開催日時:2016年9月27日(火)13:15~14:45
- 場所:龍谷大学深草学舎22号館202教室
- 報告者:丘山 新(浄土真宗本願寺派総合研究所所長)
- 参加者:102人

グループ2(共時的研究班)・ユニットB:多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

①2016年度 第1回 ワークショップ

- テーマ:仏教の女性観を考える—ジェンダーの視点から—
- 開催日時:2016年6月21日(火)13:15~16:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室
- 報告者・報告題目:
岡田真水(真美子)(兵庫県立大学名誉教授)
「女性の成仏について—改転の成仏と即身成仏をめぐる」
飯島恵道(曹洞宗薬王山東昌寺, 花園大学非常勤講師)
「ジェンダー不平等な現状に関する報告」
- コメンテーター:
桂 紹隆(龍谷大学世界仏教文化研究センター研究フェロー)
佐藤智水(龍谷大学世界仏教文化研究センター研究フェロー)
- 参加者:78人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

②2016年度 第2回 ワークショップ

- 報告題目:英語でブッダ:仏教のグローバル化とその可能性
- 開催日時:2016年7月8日(金)10:45~12:15
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者:大來尚順(公益財団法人仏教伝道協会)

■コメンテーター:

桑原昭信(BARC 博士研究員)

川本佳苗(日本学術振興会特別研究員)

■参加者:21 人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

③2016 年度 第 3 回 ワークショップ

■テーマ:現代真宗とジェンダー—教団・寺院・女性—

■開催日時:2016 年 10 月 27 日(木)13:15~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者・報告題目:

池田行信(浄土真宗本願寺派慈願寺住職)

「私と寺族女性問題」

横井桃子(関西学院大学社会学部非常勤講師)

「地域にいきる坊守」

■コメンテーター:

龍溪章雄(龍谷大学文学部教授)

猪瀬優理(龍谷大学社会学部准教授)

■参加者:31 人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

④2016 年度 第 1 回 学術講演会 * 22

■報告題目:『歎異抄』の翻訳を通して見た親鸞思想—イスラーム学者の視点から—

■開催日時:2016 年 10 月 12 日(水)10:45~12:15

■場所:龍谷大学大宮学舎北翼 204

■報告者:アボルガセム・ジャーファーリー(コム宗教大学専任講師)

■司会・通訳:那須英勝(龍谷大学文学部教授)

■参加者:85 人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

2016 年度『研究報告書』を HP で公開中(「研究進捗状況」,「ワーキングペーパー」を収録)。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/research/upfile/98e03fd81a02a21a9a5aca9b8104dc9424ddfaa7.pdf>

2016 年度第 1 号『ニューズレター』(通巻第 2 号)を HP で公開中。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/newsletter/upfile/593187c60df304fa6ab65764221e89bcadfea9e0.pdf>

2016 年度第 2 号『ニューズレター』(通巻第 3 号)を HP で公開中。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/newsletter/upfile/02f6781edfdc79226a7b132cd4cf8186993137e9.pdf>

【2015 年度】

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

センター全体

①2015 年度 第 1 回 研究総会

- 開催日時:2015 年 9 月 24 日(木)18:15~20:10
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室
- 参加者 :22 人

②2015 年度 第 2 回 研究総会

- 開催日時:2016 年 3 月 16 日(水)14:00~16:20
- 場所:龍谷大学大宮学舎南翼 202 教室
- 参加者:26 人

グループ 1(通時的研究班)・ユニット A:日本仏教の形成と展開

①2015 年度 第 1 回 研究会

- 報告題目:浄興寺・大谷大学蔵『教行信証』に関する調査報告
- 開催日時:2015 年 10 月 15 日(木)17:00~19:00
- 場所:龍谷大学大宮学舎清風館 3 階共同研究室 301・302
- 報告者:川添泰信(龍谷大学文学部教授)
- 参加者:20 人
- 共催:龍谷大学世界仏教文化研究センター, 龍谷大学仏教文化研究所

②2015 年度 第 2 回 研究会

- 報告題目:大谷大学蔵『教行信証』に関する調査報告
- 開催日時:2016 年 2 月 18 日(木)13:00~14:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎清風館 3 階共同研究室 301
- 報告者:三栗章夫(龍谷大学 REC コミュニティカレッジ講師, 元浄土真宗本願寺派総合研究所
上級研究員)
- 参加者:25 人
- 共催:龍谷大学仏教文化研究所

③2015 年度 第 3 回 研究会

- テーマ:南都の教学と論義
- 開催日時:2016 年 2 月 18 日(木)15:00~17:30
- 場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室
- 総合司会:道元徹心(龍谷大学理工学部教授)
- 報告者・報告題目:
中西俊英(東大寺華嚴教学研究所研究員)
「華嚴教学における問題意識—論義資料解説の一視点として—」
蜷川祥美(岐阜聖徳学園大学短期大学部教授)
「法相論義の展開」
- コメンテーター:
楠 淳證(龍谷大学アジア仏教文化研究センター長, 文学部教授)
藤丸 要(龍谷大学文学部教授)
- 参加者:18 人

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

④2015 年度 第 1 回 セミナー

■テーマ:北嶺の論義

■開催日時:2016 年 1 月 14 日(木)13:15~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■総合司会:藤丸 要(龍谷大学文学部教授)

■基調講演:

藤平寛田(天台宗典編纂所編輯員, 叡山学院講師)

「天台論義の基礎と文献」

■研究発表:

吉岡 諒(2015 年度 BARC 公募研究員)

「栄西の大師号要請について」

吉田慈順(2015 年度 BARC 公募研究員)

「報仏常無常を巡る論争」

■参加者:27 人

⑤2015 年度 第 1 回 文化講演会 * 26

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の行—修験, 回峰行, そして親鸞聖人へ—

■講題:修験の修行に学ぶ

■開催日時:2015 年 11 月 30 日(月)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■講師:宮城泰年(聖護院門跡, 元龍谷大学客員教授)

■参加者:95 人

⑥2015 年度 第 2 回 文化講演会 * 26

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の行—修験, 回峰行, そして親鸞聖人へ—

■講題:回峰行のこころ

■開催日時:2015 年 12 月 7 日(月)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■講師:光永覚道(北嶺大行満大阿闍梨, 延暦寺南山坊住職)

■参加者:169 人

⑦2015 年度 第 1 回 学術講演会

■テーマ:『教行信証』の書誌学

■開催日時:2016 年 2 月 22 日(月)9:00~12:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館地下 1 階 B102

■講師・講題:

赤尾栄慶(国立文化財機構京都国立博物館名誉館員, 元同博物館上席研究員)

「坂東本の成立過程を考える」

宇都宮啓吾(大阪大谷大学文学部教授)

「訓点から見た坂東本」

■参加者:40 人

⑧2015 年度 第 2 回 学術講演会

■テーマ:華嚴経と毘盧遮那仏

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■開催日時:2016年2月28日(日)13:15~18:00

■場所:龍谷大学深草学舎和顔館地下1階B101

■総合司会:宮治 昭(龍谷大学文学部教授)

■講師・講題:

大竹 晋(仏典翻訳家)

「『華嚴経』—ブツダとその世界—」

朴 亨國(武蔵野美術大学教授)

「中国・韓国の廬舎那仏・毘盧遮那仏」

肥田路美(早稲田大学教授)

「龍門奉先寺洞廬舎那大仏をめぐって」

■参加者:77人

⑨2015年度第3回文化講演会*26

■テーマ:聖地に受け継がれし伝灯の行—修験,回峰行,そして親鸞聖人へ—

■講題:若き日の親鸞聖人—天台修験=回峰行の修行をとおして—

■開催日時:2016年3月5日(土)13:30~15:00

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館

■講師:浅田正博(龍谷大学名誉教授,浄土真宗本願寺派勧学)

■参加者:168人

グループ1(通時的研究班)・ユニットB:近代日本仏教と国際社会

①2015年度第1回研究会

■報告題目:1900年厦門事件追考—真宗大谷派の事件関与と世論対応を中心に—

■開催日時:2015年9月11日(金)16:30~18:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者:中西直樹(龍谷大学文学部教授)

■参加者:15人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

②2015年度第2回研究会

■開催日時:2016年2月5日(金)13:00~16:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・題目:

中西直樹(龍谷大学文学部教授)

「仏教雑誌にみる大正期の台湾布教」

大澤広嗣(文化庁文化部宗務課専門職)

「課題としての戦時下の日本仏教と南方地域」

■参加者:20人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所,龍谷学会

③2015年度第1回国内ワークショップ*10

■テーマ:「仏教」と「農業」のあいだ—大谷光瑞師のトルコでの動向を中心として—

■開催日時:2015年12月10日(木)15:00~17:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者・報告題目:

ヤマンラール水野美奈子(龍谷大学国際社会文化研究所研究員)

「大谷光瑞師のトルコにおける二つの殖産事業」

玉井鉄宗(龍谷大学農学部助教)

「農学者・大谷光瑞師の「熱帯農業の奥義」」

三谷真澄(龍谷大学国際学部教授)

「仏教者・大谷光瑞師と農業」

■趣旨説明:三谷真澄(龍谷大学国際学部教授)

■閉会の辞:能仁正顕(龍谷大学文学部教授)

■参加者:40人

■共催:龍谷大学国際社会文化研究所

■協力:龍谷大学仏教文化研究所

④2015年度第2回国内ワークショップ*11

■テーマ:大谷光瑞とチベット—多田等観将来「釈尊絵伝」をめぐる—

■開催日時:2016年2月25日(木)13:15~16:30

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室

■報告者・報告題目:

宮治 昭(龍谷大学文学部教授)

「インドの『舎衛城の神変』図について」

岡本健資(龍谷大学政策学部准教授)

「舎衛城神変と多田等観将来釈尊絵伝」

岩田朋子(龍谷大学龍谷ミュージアム講師)

「釈尊絵伝にみられる仏弟子たちの物語」

能仁正顕(龍谷大学世界仏教文化研究センター長, 文学部教授)

「阿闍世教化の伝承と釈尊絵伝」

■総合司会:三谷真澄(龍谷大学国際学部教授)

■参加者:34人

■共催:龍谷大学仏教文化研究所

グループ2(共時的研究班)・ユニットA:現代日本仏教の社会性・公益性

①2015年度第1回研究会

■報告題目:宗教教団における信仰継承について

■開催日時:2015年10月14日(水)9:45~12:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館3階共同研究室301・302

■報告者:猪瀬優里(龍谷大学社会学部講師)

■司会:野呂 靖(龍谷大学文学部講師)

■参加者:25人

■共催:真言宗智山派智山教化センター

②2015年度第2回研究会

■報告題目:ソーシャルワークのグローバル定義と仏教思想

■開催日時:2015年10月26日(月)14:00~16:30

■場所:龍谷大学響都ホール校友会館会議室

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

■報告者:長崎陽子(龍谷大学非常勤講師)

■参加者:16 人

■共催:日本仏教社会福祉学会

③2015 年度 第 3 回 研究会

■報告題目:テランガーナ州における仏教運動の展開

■開催日時:2015 年 11 月 9 日(月)15:00~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者:ボーディ・ダンマ(僧侶, 全インド仏教青年連盟会長)

■コメンテーター:佐藤智水(龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー)

■参加者:39 人

■共催:龍谷大学現代インド研究センター(RINDAS)

④2015 年度 第 4 回 研究会

■報告題目:青少年の倫理問題に答えるタイ仏教

■開催日時:2016 年 1 月 15 日(金)13:15~14:45

■場所:龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

■報告者:K.プラポンサック(2015 年度 BARC 公募研究員)

■ファシリテーター:若原雄昭(龍谷大学文学部教授)

■コメンテーター:藤 能成(龍谷大学文学部教授)

■参加者:20 人

⑤2015 年度 第 5 回 研究会

■報告題目:東日本大震災における仏教の果たした役割と課題

■開催日時:2016 年 3 月 4 日(金)9:30~12:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館 3 階共同研究室 301・302

■報告者:藤森雄介(淑徳大学人間環境学科教授)

■司会:長上深雪(龍谷大学社会学部地域福祉学科教授)

■参加者:10 人

⑥2015 年度 第 1 回 国内ワークショップ*13

■報告題目:自死問題に向き合う仏教者の活動とその理念

■開催日時:2016 年 2 月 22 日(月)14:00~17:00

■場所:龍谷大学大宮学舎清風館 3 階共同研究室 301・302

■報告者:

小川有閑(浄土宗総合研究所)

宇野全智(曹洞宗総合研究センター)

竹本了悟(浄土真宗本願寺派総合研究所)

■司会:野呂 靖(龍谷大学文学部講師)

■参加者:30 人

■共催:教団附置研究所懇話会「自死問題研究部会」, 浄土真宗本願寺派総合研究所

⑦2015 年度 第 1 回 国際ワークショップ*31

■テーマ:Engaged Buddhism, The US and Japan: Past, Present and Future

■開催日時:2016 年 3 月 11 日(金)13:30~16:00

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

- 場所: Jodo Shinshu Center, Conference Room (2nd floor), Berkeley, California
- 報告者:
Scott Mitchell (Institute of Buddhist Studies)
Funie Hsu (San Jose State University and Board Member of the Buddhist Peace Fellowship)
Aya Honda (Hyogo University)
Mitsuya Dake (Ryukoku University)
- 参加者: 21 人
- 協力: Institute of Buddhist Studies

グループ 2(共時的研究班)・ユニット B: 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

①2015 年度 第 1 回 研究会 * 22

- 報告題目: 日本におけるイスラーム思想と仏教思想の対話の可能性
- 開催日時: 2015 年 10 月 13 日(火) 10:45~12:15
- 場所: 龍谷大学大宮学舎清風館 3 階共同研究室 301・302
- 報告者: アボルガセム・ジャーファーリー(コム宗教大学講師)
- 司会・通訳: 那須英勝(龍谷大学文学部教授)
- コメンテーター: 佐野東生(龍谷大学国際学部教授)
- 参加者: 25 人
- 共催: 龍谷大学仏教文化研究所

②2015 年度 第 1 回 ワークショップ * 21

- テーマ: アジア宗教の多様性と日本の仏教
- 開催日時: 2015 年 10 月 22 日(木) 13:15~16:30
- 場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室
- 報告者:
ジョン・ボーラップ(デンマーク国立オーフス大学准教授)
レネ・キューレ(デンマーク国立オーフス大学准教授)
マリアン・クウォルトルップ・フィビガー(デンマーク国立オーフス大学准教授)
吉永進一(舞鶴工業高等専門学校教授)
- 司会・通訳: 那須英勝(龍谷大学文学部教授)
- レスポネント:
高田信良(龍谷大学文学部教授)
唐澤太輔(龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)
- 参加者: 22 人
- 共催: 龍谷大学仏教文化研究所

③2015 年度 第 1 回 国際シンポジウム * 20

- 「多文化共生社会における宗教間対話(Inter-faith Dialogue)」
- 開催日時: 2015 年 12 月 14 日(月) 10:45~15:00
- 場所: 龍谷大学大宮学舎清和館 3 階ホール
- 総合司会: 那須英勝(龍谷大学文学部教授)
- 《午前の部・討論会》
- テーマ: 宗教多元論(religious pluralism)の理論の実践論的再検討
- 報告者:

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

大來尚順(公益財団法人仏教伝道協会)

アレック・ラメイ(上智大学言語教育研究センター講師)

東馬場郁生(天理大学国際学部教授)

■レスポンドント:

小原克博(同志社大学神学部教授)

高田信良(龍谷大学文学部教授)

《午後の部・基調講演》

■講演題目: Religious Diversity behind Barbed Wire: Japanese American Buddhism and Christianity in the

WWII Incarceration Camps in the U. S.

■報告者: ダンカン・ウィリアムズ(南カリフォルニア大学教授)

■コメンテーター:

高田信良(龍谷大学文学部教授)

守屋友江(阪南大学国際コミュニケーション学部教授)

■通訳:

桑原昭信(BARC 博士研究員)

宮地 崇(龍谷大学大学院文学研究科博士課程)

■参加者: 106 人

2015 年度『研究報告書』を HP で公開中(「研究進捗状況」, 「ワーキングペーパー」を収録)。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/research/upfile/cf031d3b9b4a681d68bfb0a9563712f948e1cdf0.pdf>

2015 年度第 1 号『ニューズレター』(通巻第 1 号)を HP で公開中。

<https://barc.ryukoku.ac.jp/newsletter/upfile/379ade0810e1632586338d57c1daebfa785ce72d.pdf>

<これから実施する予定のもの>

構想調書に記載される「年度別の具体的な研究内容」より

【2018 年度】

- ①国際シンポジウム「大谷光瑞の思想と事業の再検証」(仮)
- ②ワークショップ「仏教系世界図と前近代の世界認識」(仮)
- ③「地域社会と寺院」をテーマとしたセミナー
- ④「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」をテーマとしたセミナー
- ⑤龍谷ミュージアム企画展「大谷光瑞の思想と事業の再検証」(仮)に企画協力

【2019 年度】

- ①国内シンポジウム「南都学・北嶺学の世界」(仮)
- ②「近代日本仏教と国際社会」をテーマとした国内シンポジウム
- ③国際シンポジウム「現代日本仏教の社会性・公益性」(仮)
- ④ 龍谷ミュージアム平常展・特別展に企画協力

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

グループ1(通時的研究班)・ユニットA:日本仏教の形成と展開

玉木興慈

- ①「阿難尊者の質問に想う」, 玉木興慈 著, 『学びの友』44-4(浄土真宗本願寺派中央仏教学院通信教育部), 6-7 頁, 2015 年 12 月。
- ②「相手が一番喜ぶことを」, 玉木興慈 著, 『御堂さん』10 月号(浄土真宗本願寺派津村別院), 2015 年 10 月。
- ③「お母ちゃん、怒ってるかなあ」, 玉木興慈 著, 『お盆』(本願寺出版社), 1-10 頁, 2015 年 7 月。
- ④「わたしの正信念仏偈」, 玉木興慈 著, 『大乘』(本願寺出版社), 2015 年 4 月より毎月連載。

グループ1(通時的研究班)・ユニットB:近代日本仏教と国際社会

大澤広嗣

- ①『新纂浄土宗大辞典』, 浄土宗大辞典編纂委員会監修、浄土宗大辞典編纂実行委員会編, 2016 年 3 月 14 日。そのうち「秋葉信仰」「伊勢信仰」「稻荷」「えびす信仰」「鹿島信仰」「香取信仰」「聖天信仰」「住吉信仰」「諏訪信仰」「立山信仰」「戸隠信仰」「法華信仰」「ミロク信仰」(5, 63, 92, 138-139, 240, 250, 758-759, 892, 892, 1029, 1124-1125, 1422, 1363 頁)を担当。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

該当なし

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施設	18,144	10,185	7,959				
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	21,687	14,430	7,257				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	25,053	19,412	5,641				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	27,059	20,404	6,655				
総 額	施設	18,144	10,185	7,959	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	73,799	54,246	19,553	0	0	0	0
総 計	91,943	64,431	27,512	0	0	0	0	

※ 3年目(または2年目)は予定額。

17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
(白亜館)アジア仏教文化研究センター	平成22年度	491m ²		約35人			私学助成
(白亜館)アジア仏教文化研究センター1階、2階	平成22年度	293m ²		19人程度	59,876	29,938	私学助成
・ 資料室			1	7人程度			
・ 研究室			3	9人程度			
・ 事務室			1	3人程度			
(白亜館)アジア仏教文化研究センター3階、4階	平成27年度	198m ²		16人程度	18,144	7,959	私学助成
・ PD・RA室			2	4人程度			
・ 研究室			4	12人程度			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

法人番号	261014
プロジェクト番号	S1511029

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	7,626	用品・資料図書	7,626
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	116	郵便費	116
印 刷 製 本 費	938	印刷製本費	938
旅 費 交 通 費	2,499	出張費	2,499
報 酬 ・ 委 託 料	2,251	講師謝礼・業務委託	2,251
そ の 他	116	会合費・雑費等	116
計	13,546		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	99	研究補助業務	99
教育研究経費支出	0		0
計	99		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	421	備品	421
図 書	0		0
計	421		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	2,769		2,769
ポスト・ドクター	4,852		4,852
研究支援推進経費	0		0
計	7,621		

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	4,654	用品・資料図書	4,654
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	193	郵便費	193
印 刷 製 本 費	630	印刷製本費	3,721
旅 費 交 通 費	3,721	交通費	3,721

(様式1)

		法人番号		261014	
		プロジェクト番号		S1511029	
報酬・委託料	2,111	講師謝礼・業務委託	2,111	講師謝礼、翻訳料、テープ起こし等業務委託	
その他	129	会合費・雑費等	129	講演会運営に係る昼食費、講師用ミネラルウォーター代等	
計	11,438				
ア ル パ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	190	研究補助業務	190	時給 900円, 年間時間数 211時間 実人数 4人	
教育研究経費支出	0		0		
計	190				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	0		0		
図 書	0		0		
計	0				
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	3,517		3,517	学内2人	
ポスト・ドクター	9,908		9,908	学内2人	
研究支援推進経費	0		0		
計	13,425			学内4人	

年 度	平成 29 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	6,391	用品・資料図書	6,391	用品費(537)、消耗品費(154)、資料図書(5,700)	
光熱水費	0		0		
通信運搬費	270	郵便費	270	各種案内、切手代	
印刷製本費	756	印刷製本費	756	各種案内、研究報告書等研究成果の印刷製本等	
旅費交通費	3,817	交通費	3,817	研究員出張費(2,264)、招聘者交通費等(1,553)	
報酬・委託料	2,872	講師謝礼・業務委託	2,872	講師謝礼、翻訳料、テープ起こし等業務委託	
その他	373	会合費・雑費等	373	講演会運営に係る昼食費、講師用ミネラルウォーター代等	
計	14,479				
ア ル パ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	75	研究補助業務	75	時給 900円, 年間時間数 84時間 実人数 3人	
教育研究経費支出					
計	75				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品					
図 書					
計	0				
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	2,585			学内2人	
ポスト・ドクター	9,918			学内2人	
研究支援推進経費					
計	12,503			学内4人	